

令和5年度

## 第2回岐阜市立義務教育諸学校教科用図書採択検討委員会議事録

日時：令和5年7月18日（火）

午前9時15分～午後5時30分

会場：岐阜市教育研究所中舎3階大会議室

### 【事務局】

それでは、ただ今から、令和5年度 第2回 岐阜市立義務教育諸学校教科用図書「採択検討委員会」をはじめます。

はじめに、採択検討教育長である教育長が挨拶する。

### 【教育長】

本検討委員会は、岐阜市立小学校教科用図書に関する検討を行い、採択権を有する岐阜市教育委員会に上程する採択候補教科用図書を決定する。

前回の第1回検討委員会で、調査研究の在り方について審議していただいた。

本日の第2回は、調査研究員会の調査研究の報告が適切で、十分なものであるかを審議していただきたい。

### 【事務局】

ここで、事務局からこれまでの経緯を報告する。

前回の第1回採択検討委員会の後、6/13、6/26、7/3の3回、調査研究員会を開催し、教科・種目ごとに調査研究を進めてきた。お手元の資料が、調査研究結果である。

本日は、資料にまとめられている内容について、教科・種目ごとに報告していただくため審議をお願いします。

まず、前回の本検討委員会で指摘いただいた、「採択方針」だが、ここに作成した。「1. 基本方針」として、(1) から (5) までに示したとおり、単独の採択地区である岐阜市として、本年度採択を行う上での方向性について示した。また、「2. 留意事項」として、(1) 小学校の教科書、(2) 中学校の教科書、(3) ～ (5) 主に特別支援学校の教科書について示している。「3」には、各会議の設置・運営及び協議に係る留意事項を整理している。これらのことは、主に前回の本検討委員会でお話しした内容となる。

続いて、前回の会で諮ったとおり、6月14日から14日間、市内3か所の会場で「教科書展示会場」を行った。結果、3か所合わせて108名の来場者があり、73件の意見をいただいた。それらの意見は、調査研究する際の市民からの貴重な意見として、調査研究員会で委員へ提供した。

昨年度の教科書展示会の市民への周知は、「広報ぎふ」の広報誌と各学校から保護者への連絡のみとしたが、35件の来場者しか得られなかったことから本年度は市民へ広く周知しようと、岐阜市の公式ホームページ、教育研究所や各学校のホームページ、市の公式SNSや会場での掲示物、掲示板により、市民へ関心をもっていただくようにしたことにより、3か所合せて108名の来場者、73件のご意見があった。

以上、報告を終わる。

次にお願いを3点、話す。

本日の日程。資料の表紙にある「進行順」を確認願う。この後、国語から順に種目ごとに10分～20分で調査研究の報告をする。

その後、15分程度、皆様からのご質問やご意見をいただく。最後に、採択権を有する教育委員会に本日の報告を議案として上程してよいか決定をしていただく。その後、若干の休憩をとるが、本日は、長い時間の会議となる。

検討委員の皆さまは、様々な立場から参加していただいている。是非、幅広い視野からご意見をいただきたい。

各種目の報告は、前面モニターとスクリーンに資料を映しながら説明する。教科書の実物のページを提示することがあるが、教科書の発行者の意図を無視して、加工して提示することが禁止されている。よって、資料はすべて教科書のページそのものを提示し、必要に応じて一部分を拡大して提示する。それでも資料が見にくい場合がある。机の上に、各種目教科書を用意している。教科書を手に取りながら、聞いていただければと思う。

本委員会の内容については情報公開の対象になるので、議事録をとらせていただく。9月1日の情報公開の際には、任期途中となる皆様のお名前は出さない形となるが、会議の議事録をホームページに掲載させていただくので、ご理解、ご協力をお願いする。

それでは、採択検討委員会規則の第5条により、ここからは、教育長に進行をお願いし、議事に入る。

#### 【教育長】

検討委員会規則第5条第2項で、「委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と定められている。

委員13名中、本日は12名にご出席いただいているため、本会議は成立する。これより議事に入る。まず、教科「国語」、種目「国語」の調査研究を報告する。

#### 【国語：主任研究員】

私たち小学校国語科 調査研究委員会では、第4期岐阜市教育振興基本計画に示さ

れた「一人ひとりのよさが輝き、互いに認め合う心を育む教育」「主体的かつ協働的な学びを通じて、未来への礎となる力を育てる教育」「その子らしさを生かし、可能性を伸ばす教育」「このまちと人から「生きる」を学び、社会参画する力を培う教育」「新しい時代の学びにつながる、教育システムの整備」という方向性を柱にし、調査研究を進めてきた。調査の対象となった教科書は、東京書籍株式会社、教育出版株式会社、光村図書株式会社、の3者。

各者、学習指導要領の趣旨をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」等の観点からも、教材配列を工夫している。

学習指導要領では、国語科で育成を目指す「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が規定されているが、そこに示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」などをもとに、児童の発達段階をふまえ、教材を選んでいく必要がある。その上で、児童自らが「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるような言語活動を工夫する。

各者、単元のはじめに、「話す・聞く」「書く」「読む」というように、扱う言語活動、領域を明記し、そのあとに「視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう」というように「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるような単元名を設定している。

こうした教科書の内容をふまえ、私たちは、教科用図書の研究・調査を進めるにあたり、4項目、10の着眼点を設定した。お手持ちの資料をご覧ください。

3者それぞれが、様々な工夫を行い、児童に確実に言葉の力が育つよう工夫をしている。

それではまず、各者のよさの概略を示す。

東京書籍「新しい国語」。「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域が重ならないようバランスよく配置しつつ、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という3つの柱を大切にする単元構成になっている。

単元のはじめに「思い出そう」という二次元コードを位置づけ、既習単元に行きつ戻りつ学習できるようになっており、個別最適な学びを意識された構成の工夫がされている。

二次元コードの数が3者で一番多く、ICTとの連携を積極的に取り入れた構成になっており、その内容も、動画、補助資料の他に、練習問題なども入っており児童の興味に合わせて学びを深めたり、広げたりできるようになっている。

教育出版「ひろがる言葉 小学国語」。東京書籍同様に、各領域が重ならないようバ

ランスよく配置しつつ、3つの柱を大切にする単元構成になっている。各領域で、仲間と話し合ったり、考えたことを伝え合ったりする活動が必ず位置付けられており、協働的な学びを重視した単元構成となっている。3者の中で唯一、全学年、上下分冊となっており、児童が持ち運ぶ際に負担が少なく、新しい教科書に出会う期待も大切にされた構成となっている。

光村図書「国語」。この教科書も、前出の2者同様、各領域が重ならないようバランスよく配置しつつ、3つの柱を大切にする単元構成になっている。巻頭の「国語の学びを見わたそう」や単元冒頭の「確かめよう」により、前の学年やそれまでの単元での学びの内容を児童に意識させた上で、学習に入る工夫がされており、既習内容の上に新たな学びを積み上げようという構成が強く打ち出されている。「読むこと」にかかわる単元では、身につけたい力につながる言語活動とともに、学びの観点が複数示され、児童が主体的に選択しながら学びを進めることができよう配慮されている。

このように、各者のよさの概略をまとめたが、前述の4項目、10の着眼点に基づく評価結果がこちら。

総合的な評価として、東京書籍と光村図書 の評価が高くなった。

ここからは、この2者、東京書籍と光村図書を中心にして、9つの着眼点にかかわり、説明する。

項目1「学習指導要領 ・資質・能力の三つの柱をバランスよく育成」にかかわって。

まず、【1—(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成】について。

ここでは、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という資質・能力の3つの柱を、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動を考慮し、バランスよく各学年に配分されているかについてみていった。

2者ともに、「3つの柱」については、丁寧に扱っている。ただし、その扱い方については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動における領域に差異がある。

まず、東京書籍の領域ごとの教材数について。各領域で扱う教材の数について、学年によって、大きな偏りはない。

次に、光村図書。こちらも、各領域で扱う教材の数について、学年によって、大きな偏りはない。ただし、光村図書は、「話すこと」「書くこと」といった表現に関わる教材の数が多くなっている。言葉表現する中で、楽しく習得させていく構成になっ

ている。よって、光村図書を◎とした。

次に、【1—(2) 他教科等の学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性】。ここでは、「書くこと」の領域に関して、各学年にどのような言語活動が位置付けられているか。具体的には、情報の扱い方に関する事項と「書くこと」との関連を図った単元について、みていった。

今回は、2年生における「順序」に関わる単元で説明する。

まず、東京書籍。「書くこと」の単元の前に、「じょうほうのとびら」というコーナーを設けている。情報の取り扱いについて丁寧に学び、それを文章読解の中で確かめ、その上で「書く」活動の中で活用させている。

次に、光村図書。こちら、「書くこと」の単元の前に、情報のスペースを設けているところは同じだが、内容量は少なく、他の教材、他の教科の活動に生かせるような紙面にはなっていない。

よって、今回は、東京書籍を◎とした。

次に、【1—(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】。

ここでは特に、「読むこと」領域の内容を指導するに当たり、どのような主体的・対話的な言語活動が設定されているか等について、みていった。

今回は、5年生「大造じいさんとガン」の単元で説明する。

まず、東京書籍。主人公の「人物像」について、心情の変化や情景描写に着目させながら読み取らせ、それを仲間と伝え合う中で、自らの考えを形成させていく構成となっている。

次に、光村図書。こちら、「読むこと」領域の内容を指導するに当たり、どのような主体的・対話的な言語活動が設定されているか等について、みていった。

よって今回は、光村図書を◎とした。

項目2「第4期岐阜市教育振興基本計画「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」。

まず、【2—(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】。

ここでは、現在重要視されている「個別に学びを選択し学びを進めるような学習内容」、「協働的に学びを進めるような学習内容」が、どのように取り上げられているかについて、みていった。

ここでは、6年生における自分の考えを発信、提案する単元で説明する。

まず、東京書籍。「相手や目的に応じて情報を発信する」ことを目的に、「SDGs」

を題材に構成されている。自分にとって関心の高い題材を選ぶことで、自分事として主張点をまとめる。その上で、「伝わる」表現となるようグループ活動の中で相手意識を高めていく工夫がされている。

次に、光村図書。こちらは、「構成を考えて、提案する文章を書く」ことを目的に、「デジタル機器」を題材に構成されている。こちらにも、興味ある題材について自分で取材し、グループでの交流の中で文章を練り上げていく構成なのだが、構成を考えていく「例」を具体的に示し、仲間とともに協働的な学びが進めやすい工夫がされている。

よって今回は、光村図書を◎とした。

次に、【2—(2) ICTを活用した学習活動の充実】。

ここでは、児童がICT機器を活用して学習に取り組むためのコンテンツに誘う工夫等についてみていった。3年生の教科書紙面と、各者から出されている内容解説資料で説明する。

まず、東京書籍。3年生巻末の「ふろく」の中に「デジタルしりょうを活用しよう」というページを設け、ICT機器の活用を促している。「デジタルノート」の作り方など、新しい提案もなされている。また、内容解説資料によると、動画、補助資料の他に、練習問題なども設定し、児童の興味・関心に合わせながら、学びを広げたり深めたりすることができる工夫がなされている。なお、他者に比べ、二次元コードの活用が多くなっている。

次に、光村図書。3年生「進行にそって、班で話し合おう」という単元では、教科書で示されている活動の実写動画などが具体的に示され、活動のイメージをもち見通しもって活動が進められるような工夫がなされている。

内容解説資料によると、児童が自分事として活動に主体的に取り組めるよう、「問いをもつための動画」「書くための資料」なども豊富に用意されている。

こうした状況から、ここでは2者とも◎としている。

項目3「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」。

具体的には【岐阜市の児童の実態等に適した教科用図書】について。

ここでは、郷土への誇りや愛着を育むことに関連した学習内容は、どのようなものが位置付けられているかについて、みていった。

ここでは、2年生における 町でみつけたものを仲間に伝える単元で説明する。

まず、東京書籍。教材「町で見つけたことを話そう」では、生活科と関連付けて学ぶことができる教材を位置づけ、体験と言語活動を組み合わせながら、郷土への誇りや愛着を育むことができるように構成している。

次に、光村図書。教材「こんなもの、見つけたよ」では、こちらにも、身近な地域の

事柄について、調べたり発信したりする中で、郷土への誇りや愛着を育む構成だが、取材メモの例示に「視点」を具体的に示すことで、郷土をより深く、そして広く見させていくことに留意している。

よって今回は、光村図書を◎とした。

最後に、項目4「印刷・製本等」。

ここでは特に【4-(2)文字の大きさ、字間、行間、書体、図版等】について。ここでは、文節ごとの分かち書き、文節改行等、低学年児童や配慮の必要な児童への対応はどのようなものかについて、みていった。

ここでは、1年生教材「大きなかぶ」で説明する。

まず、東京書籍。大きな文字で、1年生にとって見やすい紙面。ただし、1文の表示がやや長く、挿絵とのバランスもとれていないため、見やすさに欠ける。

次に、光村図書。字体が、オリジナルの教科書体で見やすいものになっている。また、話のまとまりが捉えやすいように、単語や文節の途中で改行しないよう配慮してある。

よって今回は、光村図書を◎とした。

私たち小学校国語科：調査研究委員会では、11名の研究員で、学年ごと3者の教科用図書を調査・研究してきた。

上位2者の中で、評価点の高い東京書籍と光村図書の2者の共通点や相違点を中心に整理してきたが、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が育つ魅力ある教材が豊富であること、児童自らが「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるような言語活動がより工夫されていることという点で、「光村図書が望ましいのではないか」ということを、私たち小学校国語科：調査研究委員会の見解として報告する。以上。

#### 【教育長】

種目「国語」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

#### 【採択検討委員】

3番の岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書の着眼点に関わって2点質問する。

1点目は、幼児教育との繋がりということで、教育長が校長会の折によく話をされること。岐阜市の課題が、不登校対策と幼児教育だという話をよく伺う。特に小学校1年生の教科書だと思うが、そういった幼児教育との繋がりについて何か配慮されている特記事項があれば教えていただきたい。

同様に、着眼点3についての質問2つ目であるが、東書と光村を比べたときに東書の方は町探検があり、いわゆる生活との教科横断的な視点での学習活動が可能である

という説明があった。小・中学校では、ぎふMIRAI'sについての学習内容にも取り組んでいるところだが、この調査研究資料を読むとこの3の評価が東書も光村も一重丸になっていると思うが、東書の調査研究資料を見せていただくと、そちらの方が二重丸になるのではないかというふうにも読み取れる。その辺りも少し詳しく説明いただきたい。

**【主任研究員】**

1点目、幼児教育等の関連ということだが、幼保との連携を意識した教科書づくりというのは弱いと感じている。あくまで義務教育がスタートというところで、ゼロからでも学んでいけるというスタンスで構成されているように今回の調査研究の中で感じている。

**【副主任研究員】**

2点目、指摘のとおり、東京書籍では生活科などとの教科との横断という点では非常に優れていると考えられる。しかし、光村については、その教科との横断だけに関わらず、子どもたちが日頃の日常的な興味・関心の中から話題を探すといった題材設定がなされていて、そういった点で両者ともに○という評価とした。

**【教育長】**

よろしいか。

**【採択検討委員】**

調査研究資料の着眼点1、意見のところの第4段落のところに、『読むこと』の領域において」と書いてあるが、その中で学びの視点が複数示されていると書いてある。今、提示できれば、教科書の何ページにこんな視点があるということを教えて頂けるとありがたいというのが1つ目である。

2つ目は着眼点1の(3)。「読むこと」に関わると思うが、その中でも正確に理解することという話があった。私の勝手な思いだが、以前に比べて「読むこと」よりも表現することの方が大事にされている。また、意見書の中にも、昭和60年代に比べて文字数が少ないのではないかということがあったりする。そういった点と、あるいは読解力という点で、OECDのPIISAの調査などでいうと、読解力の結果が重視され、2022年の大学入試の共通テストでも、数学ですごく文字数がある問題があり読み取る力が大事であると感じた。他の教科がなかなか理解できないことにもつながると思うので、読解力を育成するということで光村が適正なのかを説明してほしい。

**【副主任研究員】**

1点目の光村の「読むこと」の視点が示されているということについて、先ほど使用した資料をもとに話す。東書の方では、心情等の観点については示されているが、読み深める時にどういった視点で話を考えていくとよいかというところの具体的な示



唆がない。光村だと、このように読んで読み深めようという時でも、4つの視点が示され、その中から子どもたちの学びの中で出た興味・関心をもとに読み深めていくことができる。そのような、個別の興味にそった選択肢が示されている点が光村の特徴だと言える。

#### 【主任研究員】

委員から教えていただいた二点目について話す。

東京書籍も光村図書も、共に表現重視というのはかなり強い側面がある。ただし、たくさんの情報を上手に手に入れながら表現させていくという意味で、理解しながら伝えていくわけだが、手に入れたものをどう整理するかということについて、理解と表現をつなぐところがかなり丁寧に整理されている。例えば付箋を貼るという例示もあったが、具体的にたくさんの情報からの確に伝わる表現に行くような指示は光村がかなり丁寧に示している。指摘いただいた点についても、光村の方が優位だと考えている。

#### 【教育長】

その他あったら。

#### 【採択検討委員】

多様な学びを支援する教育の充実というところが三者とも○になっている。全て同じ評価ということだが、結果を見ると、若干、教育出版の方が取り上げられている事例数が多い印象を受け、東京書籍もその次に多く、光村が若干少ない。数的な話だが、それでも三者とも○にしたことの原因があれば教えて欲しい。

#### 【副主任研究員】

ご指摘のとおり、取り上げている教材という点で考えると教育出版が多いが、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」という点においては、資料もしくはその観点のページなど光村は丁寧である。題材の多さで取った部分とその子どもたちの学び方という点でとった分で両者ともに同じ評価というふうに捉えている。

#### 【教育長】

よろしいか。その他どうか。

#### 【採択検討委員】

現行は光村。指導要領が変わらずに教科書だけ採択替えということだが、今、使っている光村の教科書のバージョンと新たな光村のバージョンで、ここが進化している、こういう進歩がみられるから光村だというふうに、現状のものからの改善点があったら教えていただきたい。教科書を使うと教科書で授業をやる傾向があると思うが、その背景は、教科書が詳しければなるほど、丁寧になればなるほど教員は思考せずにその通りにやっていくというところに陥ってしまう。詳しく丁寧になされている教科

書がよいとは限らない。その辺りのバランスが必要。教科書の丁寧さと先生と子どもとの思考に関わって、何か議論されたことがあれば教えていただきたい。

**【主任研究員】**

光村図書に関わって現行のものかどうかということについて、一番の違いはやはり二次元コードの数だと思う。これは光村だけではないが、タブレットありきで編集がされていることは間違いない。しかも二次元コードをかざした時に出てくるものが、動画だけではなくて練習問題も出てくる。こうしたことが一番の違いだと思っている。2点目の、教科書で学ぶにあたってのご指摘だが、37年教員やっているが、国語の教科書はどんどん学び方のページが増えている。これは言語活動の充実ということが言われてから、特に丁寧になされるようになってきた。そのことが教員の働き方改革に結びついていることは間違いない。ただそこで各授業者が手を抜いているのではないかとと言われると、それはあるかもしれない。何よりも、先ほどの二次元コードにもつながるが、学び方提示と具体的なものが同時に示されているので、誰がやってもある一定の授業の質が担保されることは間違いないということ。私はこの学び方また二次元コードの充実というのは、子どもにとって価値ある教科書としては必要であると考える。

**【教育長】**

よろしいか。その他。どうぞ。

**【採択検討委員】**

目の前に教科書が並んでいて、パッと目に入るのが光村だった。なぜかというところの色彩感覚に惹かれた。同じ単元があって、例えば「大きなかぶ」を見たときでも、配色がとても綺麗。子どもたち、特に1年生の子達が学校へ入学して、教科書を通して、きれいなものに触れるというのは感性を育てる部分で大切だと思っている。それでいくと「はなのみち」が入っていて、1年生を担当したことがあるが、これは生活科にも通ずる。種をまいて花をとということで、とても温かい気持ちになって学習した経験がある。説明を聞いていて、縦に長く書かれていると、小学校入学してすぐの子ども達は、なかなか字が読みにくい。子たちにとってはその縦に一直線並んでいるものも、すごく読みにくい。それから字の形にとても配慮がある。学習の進め方のページについても、細かい矢印で配慮がある。先ほど主任研究員が言われたみたいに、どの先生がやってもできるだけ質が落ちないようにとか、そういうことも配慮されていることで、きめ細やかな配慮がある教科書を選んでいただき、私は安心している。

**【主任研究員】**

指摘いただいたことだが、私たち調査研究員の中でその挿絵等についても当然検討した。まずもって一行の文字数等は、その目の動きとして発達段階相応のものである

ことについて丁寧に見てきた。ここを外すと、文字の配列のみで子どもが学習を避け  
てしまうことがあるため、特に注意して見てきた。プレゼンの中で説明したように、  
その辺の配慮が一番あったのが、三者の中でも光村だと思っている。

#### 【教育長】

よろしいか。その他。

質問、意見もないようなので、採決に移らせていただいてよろしいか。

それでは種目国語の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認  
を頂けるか。

承認いただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認)

#### 【書写：主任研究員】

続いて、書写の教科用図書にかかわる調査研究の結果について報告する。

書写も、第4期岐阜市教育振興基本計画に示された「一人ひとりのよさが輝き、互  
いに認め合う心を育む教育」、「主体的かつ協働的な学びを通じて、未来への礎となる  
力を育てる教育」、「その子らしさを生かし、可能性を伸ばす教育」、「このまちと人か  
ら「生きる」を学び、社会参画する力を培う教育」、「新しい時代の学びにつながる、  
教育システムの整備」という方向性を柱にし、調査研究を進めてきた。

調査の対象となった教科書は、教育出版株式会社、光村図書株式会社、東京書籍株  
式会社の3者。

各者、学習指導要領の趣旨をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、  
「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」等の観点からも、  
教材配列を工夫している。

学習指導要領では、国語科で育成を目指す「国語で正確に理解し適切に表現する資  
質・能力」が規定されているが、そこに示された「知識及び技能」「(3) 我が国の言  
語文化に関する事項を身につけることができるように指導する」に、書写の内容が位  
置付けられている。書写が、言語活動を支える基礎的な役割を果たすことが、より明  
確になっている。

各者、単元のはじめに、「大きさ」、「配列」、「組み立て方」というように扱う学習課  
題を明示し、その中に「生活に広げよう」など、言語活動や他教科での活動の中で活  
用できるよう、単元を設定している。

こうした教科書の内容をふまえ、私たちは、教科用図書の研究・調査を進めるにあ  
たり、4項目、10の着眼点を設定した。お手持ちの資料、3ページをご覧いただき  
たい。

「種目 国語」とほぼ同じ着眼点だが、書写ならではの内容を鑑み、調査の方法を

設定し、調査研究員で評価をしてきた。3者それぞれが、様々な工夫を行い児童に確実に言葉の力が育つよう工夫をしている。

それではまず、各者のよさの概略を示す。

教育出版「小学書写」。前述のように、単元のはじめに扱う学習課題を明示しその上で具体的な活動を示し、他教科や生活の中でも活用できるよう、単元を設定している。1時間の中で「試し書き」から「まとめ書き」という学びの流れがあり、自ら自身の学びの変容が自覚できるようになっている。また、3者ともに、筆に水をつけて練習する「水書用紙」が用意されているが、この教科書には、基本となる運筆練習ができるよう「ウォーミングアップ線」が設けられるなど、児童が主体的に学びを進めていけるような工夫がなされている。

光村図書「書写」。初めて文字を書く1年生のために、なぞり書きの部分が、点付き太線とグレーの線というように分けて示してあるなど、全学年にわたり、学び手の立場に立った書面づくりがなされている。また、1単位時間の学習内容を精選し、1ページ当たりの情報量を減らすと同時に、手本の文字を左側に、学習のポイントを示す説明文と部分手本を右側に位置づけ、確実に知識・技能が身につくような配慮がなされている。ICTも効果的に取り入れており、二次元コードから得られる動画情報には、全てに字幕がつけられ、児童が自分のペースで学習していけるよう工夫されている。

東京書籍「新しい書写」。何を学ぶのかを明確にするために、「書写のかぎ」というコーナーを設けて、必要な知識・技能を示している。また、単元の終わりに「ふり返ろう」というコーナーを設け、身につけた知識・技能を再認識させる工夫がなされている。また、学年のまとめとして、低学年は「気をつけること」を一つ選択して取り組んだり、中・高学年では、書く「文字」「めあて」「用具」を選択して清書をし、つけた力を確かめることができるようになったりしている等、6年間を通じて、自分なりに学びを選択して取り組める工夫がある。

このように、各者のよさの概略をまとめたが、前述の4項目、10の着眼点に基づく総合的な評価として、光村図書と東京書籍の評価が高くなった。ここからは、この2者、光村図書と東京書籍を中心にして、7つの着眼点にかかわり、説明する。

まず、【1—(1) 資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成】について。ここでは、各学年の発達段階に応じた技能・文字を身に付ける教材が位置付けられているかについて、みていった。今回は、1年生最初の「とめ」、「はらい」、「はね」等に関わる紙面で説明する。

まず、光村図書。最初の書写の学びということで、内容的に無理をせず、「とめ」「は

らい」のみを扱っている。また、とめ、はらいの部分練習と、文字全体の練習を組み合わせることで、習熟を図っている。実際の鉛筆の写真もあり、イメージのしやすい紙面である。

次に、東京書籍。こちらは、「とめ」「はらい」「はね」を同時に扱っており、内容的に難易度が高くなっている。部分練習や鉛筆の写真もなく、学びの具体がイメージしにくい。

よって、ここでは、光村図書を◎とした。

次に、【1—(2) 他教科等の学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性】。ここでは特に、初めて毛筆の学習に取り組む3年生の学習内容はどのようなものであるか、そして、その後の学習や生活にも生きてくる小筆の取り扱いについて、みていった。

まず、初めて毛筆の学習に取り組む3年生の学習内容について。

まず、光村図書。「用具のじゅんぴ」というページでは、実際の学習場面での準備の仕方を、大きな写真で机上のみを焦点的に示している。初めて学ぶ3年生にとっては、こうした視覚に訴える提示は、とても有効である。

次に、東京書籍。こちらも「用具のじゅんぴ」として示しているが、片づけ方と合わせての提示のため、全ての写真が小さくなっている。初めて学ぶ3年生にとっては、一度に扱う情報量が多いように思う。

つづいて、小筆の学びの導入場面について。

まず、光村図書。小筆の持ち方、扱い方が丁寧。鉛筆と比較することでイメージしやすくなっている。また、練習も、いきなり自分の名前ではなく、線や点画、絵などで運筆の練習をし、その上で、自分の名前に取り組ませている。

次に、東京書籍。ここでは、いきなり名前の練習に取り組ませている。名前の例も、全て漢字であるため、3年生にはやや抵抗があるかもしれない。

こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書に◎をつけた。

それでは項目2「第4期岐阜市教育振興基本計画「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」について。

まず、【2—(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】。ここでは現在重要視されている「個別に学びを選択し学びを進めるような学習内容」が、どのように取り上げられているかについて、みていった。

今回は、2年生最後のまとめの学習内容で説明する。

まず、光村図書。ここでは、「一年間の学びをふりえろう」と題し、一つの例が示されている。「学んだことに気をつけて」とあるだけで、具体的な視点等はない。

次に、東京書籍。こちらも「学びを生かそう」と題し、感謝を伝える内容になっているが、「気をつけることを一つえらんで書いてみよう」と、一年間で学んだ11の内容

から自分で視点を選び、取り組ませている。縦書きと横書きも選択できるようになっている。

こうした内容をふまえ、ここでは、東京書籍に◎をつけた。

次に、【2—(2) ICTを活用した学習活動の充実】。ここでは、児童がICT機器を活用して学習に取り組むためのコンテンツに誘う工夫等についてみていった。今回は、二次元コードから見られる内容について、2者の趣意書の紙面で説明する。

まず、光村図書。ICT機器を活用したコンテンツは363点で、東京書籍より121点多くなっている。筆遣いの解説動画は、全て字幕付きで、教科書で用いている文やイラストを使って説明してあるため、筆遣いのコツを自分一人でも確かめることができる。また、筆の運びがより鮮明に分かる「斜め上からの視点」からの画像や、穂先を強調したイラスト入り動画で一つのコンテンツが構成されているため、一度の視聴で繰り返し学ぶことができる。

次に、東京書籍。シミュレーションを用いて、画の長短による文字のバランスの違いを比べている。また、字幕の有無を選択することができるが、字幕での説明の文章に、教科書では用いていない用語があるため、情報量が増え、分かりにくさにつながるかもしれない。

こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書に◎をつけた。

次に、【2—(3) 多様な学びを支援する教育の充実】。ここでは、各教科等の学習や生活の様々な場面等へ結び付ける言語活動は、どのような内容でどの程度の分量であるか、また、適切に運筆する能力の向上につながる、補充的な指導内容はどのように工夫されているかについて、みていった。

ここでは、1年生での「水ふで」を使った「水書」の紙面で説明する。

まず、光村図書。水書にかかわり、用意する物から水筆の持ち方まで、写真を示しながら丁寧に説明している。また、二次元コードから、右手で書く場合と左手で書く場合を動画で示している。

次に、東京書籍。こちらは、水書用紙の使い方が、文面だけでの説明である。

こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書に◎をつけた。

項目3「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」。具体的には【岐阜市の児童の実態等に適した教科用図書】について。ここでは、伝統と文化に親しむことができる岐阜県に関わる教材は、どの程度の分量であるかについて、みていった。

まず、光村図書。こちらは趣意書だが、二次元コードからリンクできる岐阜県にかかわるコンテンツは、「防災文字」、「書初め」、「紙筆墨、すずりマップ」、「身近な文字」、「俳句」など、5種類掲載されている。

次に、東京書籍。こちらは、5年生の紙面。七夕の短冊飾りの例として、高山市の

街並みを取り上げられている。ただし、岐阜県にかかわる内容は、この1例のみ。

こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書に◎をつけた。

最後に、項目4「印刷・製本等」。**【4—(3) その他使用上の便宜】**について。ここでは特に、注、凡例、手本の示し方、練習教材等は、どのような特徴があるかについてみていった。今回は、3年生での「はらい」に関わる手本の示し方について説明する。

まず、光村図書。ここでは、毛筆入門期の3年生ということで、右はらいと左はらいを1時間ずつ分けて取り上げている。筆先も事物大で示し、大きさの変化が分かりやすくなっている。

次に、東京書籍。こちらは、右はらいと左はらいを同時に扱っている。穂先の例示もやや小さく、穂先が通る位置も分かりにくい。

こうした内容をふまえ、ここでは、光村図書に◎をつけた。

私たち小学校国語科調査研究委員会では、11名の研究員で、学年ごと3者の教科用図書を調査・研究してきた。上位2者の中で、評価点の高い光村図書と東京書籍の2者の共通点や相違点を中心に整理してきたが、「我が国の言語文化に関する事項を身につけることができる」という点で、「光村図書が望ましいのではないか」ということを、私たち小学校国語科：調査研究委員会の見解として報告する。

**【教育長】**

はいどうぞ

**【採択検討委員】**

私は4年生の書写をやっており、年間約35時間の時数で習字、書写を教えている。研究調査項目の中の1の2のところ、手本の数が記載されており、研究調査の項目の一つに上がっていると思うが、そういった時に、3年生から6年生までのお手本の数を比べると光村が43と非常に多い。決められた時間の中でたくさんのお手本を全部やるわけにはいかなく、そこは選んで指導していかなくてはいけないわけだが、今回の調査の中で、このお手本の数についてどのような研究をなされたのかということが聞きたい。

**【教育長】**

願います。

**【副主任研究員】**

手本の数がたくさんあるということは、それだけやらなければいけない時数が増えていくというのはよく分かる。ただ点画の指導については、どうしても必要になってくるため、どのような点画を使っているのかというところを指導していくことでは、手本の数が必要かと思う。あとは、点画の終筆部分を丁寧にどれだけ扱っているかと

いうところでみてきたため、数にそれほどとらわれず今回は評価した。

【教育長】

よろしいか。その他。

【採択検討委員】

着眼点1の学習指導要領について教えてほしい。特に小筆についてということで、光村の小筆で書いてみようというところは、線とか点画を書こうとか、イラストをかいてみようとか、自分の名前を書こうとかいう学習活動になっている。一方で東京書籍の方は、先ほどの説明の中で、漢字の名前ばかりで、いわゆる難易度が高くボリュームも多いというような指摘だった。何のために書く活動をするのかということがクリアである。例えば、小筆の練習をするのに、年賀状を書くから小筆の練習をするのだという、いわゆる書く言語活動の目的がはっきりしているような感じがしているが、そのあたり、どのようにとらえたか。調査研究の報告は、光村の方が二重丸だという評価だが、そのあたりの経緯とかも聞きたい。

【教育長】

願する。

【副主任研究員】

小筆の扱いについて話す。小筆については、調査研究員たちと将来生きて使うのは、大筆よりは小筆の方が使えるという議論をした。それから、3年生で大筆から入るが、小筆の方は、取り扱いがきちんと示してある教科書が少ない。例えば洗い方であるとか、片付け方であるとか、どのような筆使いをするとよいのか、持ち方といったことが最も丁寧に書いてあったのが光村。小筆の指導がまちまちにならないように教科書できちんと扱っている光村を選択した。

【教育長】

その他よろしいか。

質問、意見ないようなので、採決をさせていただく。種目書写の調査研究が適切かつ十分なものであることについて承認いただけるか。

承認いただける方は挙手を願う。(全員挙手により承認)

それでは承認ということにしたいと思う。

【社会：主任研究員】

これから、社会の調査研究結果について、報告する。

社会科では、変化の激しい社会を生き抜き、輝かしい未来を拓く岐阜市の子どもたちを育てる視点を中核に据え、調査研究を進めた。①学び続けるための主体性を培う上で最適な教科書はどれか、これは、着眼点(1)－①にあたる。そして、子ども達



がふるさと岐阜県・岐阜市を誇りとするうえで最適な教科書はどれか。これは、着眼点（２）－①にあたる。

では、本体資料に示した１０点の「調査方法」から調査研究のうち、先に述べた２点を中心に説明する。

１点目、着眼点（１）－①について。

平成２９年告示の学習指導要領において、社会的な見方・考え方は、社会科の本質的な学びを促し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の３つの資質・能力全体に関わるものであるとされている。そこで、着眼点（１）－①について「資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成」について調査した。調査の結果、各発行者の特徴を調査研究資料にまとめたので、教科書をもとに説明する。

はじめに、「東京書籍」について報告する。

５年生（上）の２ページについて説明する。「この教科書のつくりを見てみよう」の説明の中で、働かせる見方・考え方として右上に「位置や広がりに着目」「時間に着目」など、４つの「見方・考え方」を示している。

例を示す。７１ページについて説明する。右上の地図資料の下に、「米づくりのさかんな地域は、どのあたりに広がっているのかな。」と示している。

このように、「東京書籍」では、例えば「位置や広がりに着目」する場合は空を飛んでいるイラストを示し、「かかわりに着目」する場合は人同士が手をつないでいるイラストを示すというように、３～６年生まで、馴染みのあるキャラクターのイラストと、学ぶ内容がリンクしているため、一貫して社会科において身に付けさせたいことが非常に学びやすくなっている。そのため、社会科を専門としていない教師でも、指導しやすい構成となっており、他者よりも優れているといえる。

次に、「教育出版」について報告する。

５年生の５ページについて説明する。「社会科で使う見方・考え方」として「時期や変化」「場所や広がり」など６つの「見方・考え方」を示している。

例を示す。６８ページについて説明する。ページの真ん中にイラストの吹き出しの中で「ウで位置を見ると、新潟県は日本海側にある。日本海側は冬に雪が多く降るのだったよね。」と見方・考え方を働かせている例を、イラストの吹き出しの中の太字で示している。

このように、「教育出版」では、キャラクターのイラストとともにセリフで説明を加え、社会科において身に付けさせたいことが学べるようになっている。

次に、「日本文教出版」について報告する。

5年生の7ページについて説明する。「見方・考え方コーナー」として、「空間」「時間」「関係」の3つの「見方・考え方」を示している。

例を示す。83ページについて説明する。右下に、「見方・考え方コーナー」を位置付け、「庄内平野で米作りがさかんなわけを、地形や気候に着目して考えよう。」と示している。

このように、「日本文教出版」では、見方・考え方がイラストとともに端的に示されており、社会科において身に付けさせたいことが学べるようになっている。

2点目は、着眼点(2)－①について。

岐阜県教育振興基本計画 第3次岐阜県教育ビジョン〈基本方針1－①〉には、『ふるさと岐阜』を学ぶふるさと教育の充実」が示されている。そのため、ふるさとへの誇りと愛着を育むために、岐阜県に関わって、どのような事例や資料を取り上げているかについて調査した。各発行者の特徴を調査研究資料にまとめたので、教科書をもとに説明する。

初めに「東京書籍」について報告する。

5年生(上)の22ページから31ページにわたって、「低い土地のくらしー岐阜県海津市ー」を取り扱い、ふるさと岐阜に愛着と誇りをもてるようになっている。

例を示す。23ページについて説明する。右上の地図資料には木曾三川が示されているが、三つの川をあえて空欄にし、児童に興味をもたせ、地図帳と併せて調べることができるように工夫されている。また、5年生(下)の77ページについて説明する。真ん中や左下には、下呂温泉観光協会が観光客を増やすために情報を活用している資料があり、親しみやすく、魅力のある岐阜を発信しているということが大変よく分かるようになっている。

このように、「東京書籍」では、岐阜県のことを他者よりも多く、そして詳しく取り扱っており、児童にも身近で、親しみやすい学習内容となっている。

次に、「教育出版」について報告する。

各学年の教科書には、岐阜県に関わる事例や資料が示されている。

例を示す。3年生の158ページについて説明する。右上には岐阜市のコミュニティバスの写真資料が示されていて、路面電車で替わる地域住民にとっての身近な交通手段となっていることが分かる。

このように、「教育出版」では、3～6年生の全ての学年において、岐阜県の資料を示してあるので、児童にも親しみやすくなっている。

次に「日本文教出版」について報告する。

5年生の40ページから49ページにわたって、「低地に住む岐阜県海津市の人々のくらし」を取り扱い、低地のくらしの理解が深まるようになっている。

例を示す。41ページについて説明する。右上の資料には、輪中ができるまでの成り立ちが、イラストと文章で説明されており、興味をもって知識が得られるようになっている。

このように、「日本文教出版」では、岐阜県の事例を詳しく取り扱い、児童にも親しみやすい学習内容となっている。

以上のことから、岐阜市の子どもたちが主体的に学び続け、ふるさとを誇りとするためにも最適な教科書は「東京書籍」ではないかと考えられる。

以上、「小学校 社会」の調査報告を終わる。

#### 【教育長】

種目「社会」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、あるか。

#### 【採択検討委員】

資料の11ページに、3者のそれぞれの評価の結果があり、東京書籍と日本文教出版が、14と11ということで、候補を2つに絞られたと思うが、そこから東京書籍に決定していった経緯を教えてください。

#### 【主任研究員】

まず、3・4年生は、岐阜市と岐阜県の副読本を活用していて、特に大事なものは3・4年生の頃に主体的に学び続けるために、どのようにして学習していったいいかを身に付ける必要がある。そこから考えると、特に東京書籍には、つかむ、調べる、まとめる、いかすとか、学び方とか見方・考え方についてのヒントがいたるところにあって、非常に学びやすくなっている。それからあともう1つは、特に、東書の場合は、人にスポットがあたっていて、人の生き方を大事にしている。特に小学生の段階では、人の生き方から自分の生き方を学んでいくことが大事だと思う。そういった点で、東京書籍の方が優れていると思う。

#### 【採択検討委員】

3つ意見と聞きたいことがある。1つめ、社会科では見方・考え方が大事にされていて、それを身に付けることによって意図的に働かせるということだと思うが、3者の違いで、東京書籍が見方・考え方を十分身に付けることができるということがよく分かった。2つ目は、社会科は地域教材が大切にされると思う。どの教科書も「教科書を学ぶ」のではなく「教科書で学ぶ」という立場だと思う。そういったときに教科書から自分の生活につなげて考えるといったときに、3者の工夫や東京書籍がよかったところを教えてください。3つ目は、検討委員会で意見が出ていたら教えていただきたいが、今回AIを使って白黒の写真をカラー化したということがあったと思う。教育出版に多かったと聞いたが、私の感覚で言うと白黒の写真とかセピア色の写真を見

ると幕末や明治の初め、昭和の戦争のころまでだなと思う。一方、子どもにとってカラー化することで自分の身近にすごく感じやすいという利点もあると思うが、カラー化の写真について何か調査委員会で意見が出ていれば教えてほしい。

#### 【主任調査員】

まず、写真のことだが、調査研究員の間で話していたのは、色を付けていいのかということ。確かに色を付ければリアルにわかるかもしれないが、昔はカラーが無いのだから時代を振り返るうえでも、白黒は白黒のままの方が良いという意見は出た。

あと、学び方の工夫の面だが、先ほど言ったように、東書はつかむ、調べる、まとめる、特にまとめるところでは、地域を見学に行って、地図からどのようにまとめるといいか、誰のどの意見をどのように新聞にまとめたらよいかといったまとめ方と、新たな疑問を次の問いに発展させていくということが非常に分かりやすくなっている。特に3年生の子にとっては、生活科から社会科までを考えていくと、特に東書の工夫は素晴らしいと思った。

あとの2者については、分かりづらいというところがあって、3年生に理解できるかという内容があるので、その辺のところから東書が優れていると考えている。

#### 【採択検討委員】

自分の生活との関わり、あるいは岐阜市と教科書をつなげてかんがえるという点で工夫はあったか。

#### 【主任調査員】

つなげるとか、まとめるとか、時間的なこととか、見方・考え方について、特に東書はくわしく書いてある。ドラえもんが出てきて分かりやすく話している。だから、自分事としてとらえやすくなっていると思う。

#### 【採択検討委員】

ふるさとに誇りと愛着がもてる児童を育てるのは、私たちの大事な役目だと思うが、ふるさとというカテゴリーを考えたときに、岐阜県にかかわる資料はたくさんあるが、岐阜市に関わる資料は、コミュニティバスくらいしかない。私たちが目指しているぎふMIRAI'sの出口は、将来的に岐阜市について一時間語れる子をつくるという目的だと思う。例えば、下呂温泉の資料がある。最後の段落で「下呂温泉では観光業にかかわる人がデータを活用しながら地域を元気にできるような取組を続けている」という記述がある。岐阜市では地域を元気にできるような取組を続けているのかといった岐阜市に返すような、提案のある教科書が良いのではないか。県全体については分かるが、子どもたちにとって、ふるすとは岐阜市なので、そのあたり調査研究委員ではどのように考えたか聞きたい。

#### 【教育長】

これは岐阜市の採択なので、そういう意味での質問だと思う。

**【主任研究員】**

特に3・4年生は、岐阜市・岐阜県と広がっていくが、3者の教科書を見てみると、福岡であったり岡山であったりと結構遠い地域の話が出ているが、そこで大事にしたのは、いわゆる見方・考え方を身に付けるということ。岐阜市では、小学校社会科研究会で、3年生では「わたしたちの岐阜市」4年生では「岐阜県の暮らし」という副読本を扱っている。そこに結びつくために、いわゆる下呂ではこうだけど岐阜市ではどうという提案をしやすいのが東書であるととらえていて、そこは副読本に頼らなくてはいけないところもある。社会科の教員として教材開発に頼るところもあるが、そういった点で見みると、発展しやすい内容、地域ではこうなのだけど、岐阜市ではどうなのかと進めていきやすい内容になっているのが東書である。

**【教育長】**

3年生副読本もあるので、そこでたっぷり岐阜市の状況を学びながら見方・考え方の礎を築いて、それがさらに広がっていくという考え方でよろしいか。

**【主任研究員】**

それに、フィールドトリップということで、ぎふMIRAI's で市教委の方にやっていただいているので、これも社会科に生きて働く資料になっている。

**【教育長】**

それでは、採決をする。

種目「社会」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。

(全員挙手により承認)

**【地図：主任研究員】**

社会科「地図」の調査研究結果について、報告する。

調査にあたって、一番大事にしたことは、社会科の本質である「みえるものから見えないものが見えてくる」楽しさを子ども達に味わわせる地図帳はどれかということ。「地図帳を見ているだけでワクワクしてくる。」そんな気持ちを育てたいと常日頃、社会科では考えている。

「地図」では、「東京書籍」と「帝国書院」の2者について、10点の「調査方法」から、調査研究を行った。1点目は、着眼点1-(2)について、2点目は、着眼点1-(3)について、3点目は、着眼点2-(2)について、報告する。

1点目、着眼点1-(2)「各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性」について調査した。地図帳は、3年生以降使用する。学習指導要領改訂の大きな特徴

の一つに、「3年生からの地図帳の活用」について挙げられている。2者に共通することとして、初めて地図帳にふれる3年生に対して、イラストやキャラクターを使用し、「地図帳の使い方」や「地図のやくそく・きまり」などのコーナーを設け、「わかりやすい・楽しい・地図帳を使いたい」という知的好奇心を刺激する工夫が見られる。調査の結果、それぞれの発行者の特徴を調査研究資料にまとめたので、資料をもとに説明する。

はじめに、「東京書籍」について報告する。こちらをご覧ください。7ページから14ページまでの冒頭8ページには、「地図のきまり」や「地図帳の使い方」の特集が組まれている。ともすると理解が難しく感じる児童もいることから、同年代のキャラクターを登場させ、一緒に学んでいく展開とすることで、3年生にもわかりやすく、楽しさや好奇心がもてる工夫がなされている。このように、「東京書籍」では、地図の使い方の入門段階で「難しくて嫌」にならず、逆に好奇心を刺激し「地図って楽しい」と地図帳を開きたくなるような工夫がなされている。

次に、「帝国書院」について報告する。7ページから20ページまで、約倍の14ページにわたって、「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を取り上げている。方位の表し方を説明する際には、自分の体の向きで方位を体感できるように示したり、地図記号では記号のもとになったものを示してイメージし覚えやすくしたりと、一つ一つの項目を丁寧にわかりやすく説明している。さらに帝国書院では、冒頭6ページで、簡単な「世界地図」や「日本地図」をつけるだけでなく、21ページから30ページまでの「広く見わたす地図」を、新たに追加したことで、3年生にもわかりやすいだけでなく学年や学習段階に合わせて活用することができ、高学年ではより詳しい地形や土地利用等がわかる従来からの地図が活用できるように編集されている。このように、「帝国書院」では、冒頭の30ページを使って、地図帳を使い始める3年生に対しわかりやすい特集や簡単な地図を配置したあとに、従来からの「より詳しい表記がなされた地図」を順に載せるという大変活用しやすい2段構成をとっている。

2点目は、着眼点1-(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について調査した。2者に共通することとして、豊富な問いが設定され、その問いに沿って主体的に地図帳を活用し、より深く学べるように工夫されている。調査の結果について、資料をもとに説明する。

まず「東京書籍」では、児童の学びを深めるよう、「ホップ ステップ マップでジャンプ」と題した問いかけを、全70問設定している。こちらをご覧ください。例えば、37ページ・レベル2の問い35では、記号等を地図から探す・見付ける「作業問題」を、レベル3の問い36では、「どうしてそのような場所にあるのかを考えよう」という地図帳を活用して考えることができる「問い問題」等を位置付け、地図を活用

する知識・技能や地図から発展させて考える思考力などを、バランスよく向上させることができる構成となっている。

一方「帝国書院」では、児童が主体的に学びに向かうよう、3年生では「トライ！（5カ所、11問）」を、4年生以上では「地図マスターへの道（40カ所、全100問）」を配置している。こちらをご覧ください。例えば、57ページの左上にある「地図マスターへの道」では、問いに関連する学年や単元名が記されており、具体的な活用場面がわかる。レベル2の問い36・37では、高い山や野菜記号を探す活動を通して、地図活用の技能を身に付けたり、地形の特徴等に気付いたりできるようになっている。また、レベル3の問い38では野菜作りが盛んな理由の説明を求めることで、社会的な見方・考え方を働かせながら地図帳を活用する深い学びへとつなげている。このように、2者とも知識・技能と思考力をバランスよく育てられる工夫がなされている、さらに、帝国書院では、考えが深まらない児童に対して、他の資料も参考にして考えられる足場としてのヒントも添えられていて、子どもたちの思考力を高める上で、大変活用しやすくなっている。

3点目は、着眼点2-（2）「ICTを活用した学習活動の充実」について調査した。2者に共通することとして、豊富な二次元コードが用意されており、発行者それぞれの工夫された学習資料を活用して学びを進めることで、第4期岐阜市教育振興基本計画の基本目標2の「主体的かつ協働的な学びの場を通じて、未来への礎となる力を育てる教育」や基本目標6の「新しい時代の学びにつながる、教育システムの整備」の具現を図ることができようになっている。こちらをご覧ください。

「東京書籍」では、二次元コードが37個用意されており、地図だけで地形の特徴や土地利用の様子をイメージしにくい児童のために、ドローン動画も設定している。

「低い土地のくらし」で取り上げられている岐阜県海津市をはじめ、取り上げられている4地域は、東京書籍教科書「新しい社会」5年生とも関連させている。こちらをご覧ください。

一方「帝国書院」では、二次元コードが49個用意されており、地図クイズや動画、音声コンテンツ等600を超える二次元コードコンテンツが活用できるようになっている。中でも、デジタル地図は47都道府県すべてにおいて、各県の地形や土地利用の様子など、各8テーマずつ配置されており、地図情報を具体化したり、イメージしたりしやすくなる資料が豊富に配置されていて、多様な学習にも対応できる点で優れていると考える。

このような調査結果から、子どもたちに、よりわかりやすく、より活用しやすい地図帳としては、「帝国書院」が望ましいと考えている。以上、「小学校 地図」の調査報告を終わる。

**【教育長】**

種目「地図」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。特にないか。

**【採択検討委員】**

東京書籍の社会科の教科書を選ばれたということで、地図についても東京書籍なら教科書と関連させて使用できると考えられるが、そういった意見は無かったか。

**【主任研究員】**

その点については、実際結びつけて考えられる箇所もあるが、子どもが地図を通して土地利用の様子とか気候の様子を学んでいく上では帝国書院の方が優れているということで、関連性よりもどちらが子どもたちに力が付くのかという視点で見たときに、国書院の方が優位であるという点で一致した。

**【教育長】**

採決をする。種目「地図」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手をお願いします。

(全員挙手により承認)

**【算数：主任研究員】**

私たち調査研究委員会では、「主体的かつ協働的な学びを通じて、未来への礎となる力を育てる教育」という視点をもって、調査研究資料①の着眼点で調査研究を進めてきた。対象となった教科書は6社。

各社とも、編修趣意書に示すとおり、工夫あふれる仕上がりになっている。これから、1社ずつ、そのよさを説明する。

東京書籍では、学びを充実させるためICTを活用している。単元の導入、問題の解決、演習および理解の状況把握や評価、つまずきへの対策などで、家庭でも学校でも使用できる二次元コードのよるコンテンツを1450コンテンツ用意し、より学習意欲を高めたり理解を深めたりする工夫がされていた。単元の導入時に巻末のふりかえりコーナーと関わらせ、前の学習とのつなぎを行い、単元を通して、自ら次の課題を見出し解決していく力を育てることができ、学びを連続させるのに適している。

造本では、特に1年生の前期の教科書に工夫が見られた。1年生の教科書が2冊分になっていたのは、5社あった。その中でもA4版で造本されており、開いたときにフラットになりブロックが置きやすい工夫、さらに子どもが書き込む枠の大きさや自ら着色して変化をとらえることができる工夫がしてあった。

大日本図書では、アニメーションや動画など紙面とは別で、デジタルコンテンツが1400も準備され、学習の理解を深めたり、技能の定着を図ったりする工夫がして



あった。

単元や毎時間の導入時では、主体的に学習に取り組めるように動画を用いるなどの工夫を行い学びに向かう姿勢が身につくよう工夫したり、単元の主要な時間を「じっくり学び合おう」と位置づけ、課題解決の流れを丁寧に示し、数学的な思考力・判断力・表現力等を育成するよう工夫したりするなど、個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、紙面構成が工夫してあった。

思考力・判断力・表現力等や活用力をさらにのばすために「読み取る力をのばそう」（全学年で21題）を特設したり、算数の興味・関心を高めるためにSDGs等のコラムなどを含む「ふくろう先生のなるほど算数教室」を充実させたりしてあった。

造本では、幼保小連携を円滑に進めるため、1年生の前期の教科書を中綴じA4版で新設し、ブロック操作が分冊上で行えるようにした工夫が見られた。

学校図書では、単元の導入で、身近な疑問を見つける「？を発見」というページを設け、「？を発見」でとらえた疑問をそのまま導入の問題とし、子どもたち主体の授業が展開されるよう工夫されている。また、様々な場面で対話の場面を見せ、隣の友達や班での話合いを促し対話的な学びの力の育成を図ったり、多様な考え方に触れることで、学びが広がったりするようにしている。さらに、「できるようになったこと」「ほじゅう問題」や「算数パトロール隊」を設け、基礎的基本的な知識・技能を身につけて、深めたくなるような工夫や苦手を克服する工夫がしてあった。

学年の教科書で、見方・考え方を「考え方モンスター」としてまとめたり、前学年で学んだ学習を領域ごとに振り返ることができるように「学びの地図」として上巻の巻頭にまとめたりし、学びの連続性に気づかせる工夫がされていた。

造本では、1年生の前期の教科書を準備し、小学校に入学して算数に触れる「入門期」に数に親しみ「もの」や「形」を数に置き換えたりする活動を通して、算数が好きになるように工夫が見られた。また、6社の中で唯一、中学校の架け橋として6年生の教科書の別冊が準備されており、中学校に向けての準備を意識した構成となっていた。

教育出版では、単元の1～3で、問題発見力・問題解決力・問題追求力に焦点を当てた学び方のモデル単元を設定している。身近な場面をもとに主体性を引き出し、学ぶ意欲を実感させている。また全学年を通して、「はてな？」から学習のめあてをつくり、主体的・対話的な学びを通して「学びを深める問い??」を焦点化し、まとめ「なるほど!」、新たな問い「だったら!？」とつなげ、学びを深めていく工夫がされている。また、各単元の前半で見出した数学的な見方・考え方を、コラム「つながるミカタ」で顕在化し、後半の学習で自ら活用していけるようにしている。

さらに、学年を超えて既習事項を振り返ることができるように巻末に「学びのマッ

プ」を配置し、基礎・基本の定着を図る工夫がなされている。

啓林館では、だれひとり取り残さない「よりよい学び」を作り出すために、実体験と二次元コードによるコンテンツの配置を工夫している。単元の導入時や1単位時間に操作できるコンテンツや説明動画などを配置したり、自学で取り組める問題や間違えやすい箇所の確認スライドを配置したりし一人学びもサポートしている。単元末には、単元の学習を活かしプログラミングやSDGs とつなげ、現代的な課題について考える学習を配置するなど、自分の生活に活かすことができるように構成されている。

また、1時間の学習を見ると、既習の内容を想起させる「めばえ」を位置づけ、全ての時間に「めあて」と「まとめ」を設け、数学的な考え方については、マーカーで可視化するなど、子ども自らが見通しを立て、主体的・協働的に学べるように工夫がされている。

造本では、1年生には、操作から定着へとスムーズに学習できるようにお手元にある「すたあと ぶっく」が用意されている。単元のはじめには、単元で学ぶ数量や図形概念の獲得につながる幼児期の体験のダイナミックな写真を問いかけの文と共に掲載する工夫がされている。

日本文教出版では、各学年の巻頭ページに学習の進め方をわかりやすく例示したり、筋道立てて考える力や表現力を育てるために、考えた過程などを書き加えた算数ノートに掲載したりするなど、算数の進め方の定着を図る工夫がされている。教室での学習場面を模した紙面構成で、子どもが自分で考え、みんなで学ぶ「主体的・対話的な深い学び」のモデルを示し、各ページの側注では、「何に着目すればよいか」など、思考力・表現力等の育成のための工夫が見られる。また、1時間の学習を見ると学習内容が焦点化されるように、「めあて」「見方・考え方」「まとめ」を明示し、学びが深まる工夫がされている。さらに、巻末には一人一人の学習状況に合わせて、学習を確かにしたり、広げたり深めたりする内容を「算数マイトライ」として準備されている。

造本では、1年生の教科書はお手もとにある。ように、幼保小連携の工夫として、生活と算数を絵本の読み聞かせでつなぐ「しょうがくさんすう1」が用意されている。各領域の内容がちりばめられていて、教科書に直接書き込みやすく、ブロック操作もしやすい、開きやすい中綴じの製本となっている。

それでは、これからは、6社を項目別で比較しながら説明している。

調査項目1の着眼点(2)について、最初に、調査研究資料①にある、調査研究資料②の、調査項目1の着眼点(2)について見ている。岐阜県においては全国学力・学習状況調査において、「割合」に関わる問題に課題が見られる。そこでは、問題場面を図に表して考える力が十分に身につけていないと考えられる。それらの力を身につけるには、まず低学年においてテープ図に表すことから系統的に数直線に表すことの

できる力が必要になっている。そのためには、下学年の内容とつなげながら丁寧に学ぶことが大切である。

その過程を大切にしているのが、東京書籍、大日本図書、学校図書、日本文教出版の4社だった。

「東京書籍」では、4年生でテープ図と数直線の上にさらに数直線を重ねて既習の内容を確かめながら、系統的に指導している。さらに、図を使って考えるページを増設するなど大変丁寧に指導している。「大日本図書」では4年生で、「テープ図と数直線の図」と「二本の数直線」を並べて比べながら数直線の学習へと系統的につなげている。さらに見方考え方も併せて、数直線図の指導をさらに行っている。「学校図書」では同様に5年生で、「テープ図と数直線の図」と「二本の数直線」を並べて表記し、関係図や言葉の式も加えて指導している。「日本文教出版」は3年生で図の見方をたしかめ、4年生以上の教科書の巻末に「図を使ってあらわそう」や「図の見方をたしかめよう」など大変丁寧に指導してある。

このように、下学年の図で表現する方法と関連付けて、系統的に学習し、場面や数値の関係性を理解するために数直線図に表す過程を大切にしている。

調査項目1の着眼点(3)について、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善における、深い学びについては、「見方・考え方」を働かせることが重要になっている。見方・考え方については、どの出版社も位置付け、繰り返し活用している。その中で、振り返りの場面においても見方・考え方の視点で振り返り、見方・考え方を確実に身につけるようにしているのが「大日本図書」「学校図書」の2社だった。

「大日本図書」は、単元末のたしかめ問題において、「単元全体をふりかえろう」や、「見方・考え方をたしかめよう」の問題では、キャラクターが「□に気を付けて、図や表に表すと、落ちや重なりがなく、調べることができたね。」と吹き出しを用いて、振り返る問題を明確にして大切な見方・考え方を振り返るよう促している。

また、「学校図書」では、見方・考え方をモンスターに見立て「考え方モンスターでふりかえろう！」というページを設け、見方・考え方について振り返ることを促している。単元の最後には、導入ページで見つけた課題に対して、振り返ったり、さらに一般化を促したりしている。

さらに「大日本図書」では、「じっくり深く学び合おう」がある単元では、どんな見方や考え方が大切であったのかを振り返るよう促している。いろいろな解き方に触れていく中で、大切になる見方や考え方は何かを再度振り返って明らかにしていくことで、主体的・対話的で深い学びにつなげようとしているところが優れていると考える。

調査項目2の着眼点(1)について、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためには、一人一人が考えをもち、異なる考え方が組み合わさることが大切

になる。そのためには、数学的な活動を充実させることが大切。数学的な活動を充実させるためには、複数の考え方が位置づいていることが必要になる。どの教科書会社も複数の考えが位置づいているが、特に優れていたのは、「東京書籍」「大日本図書」の2社だった。

「東京書籍」は、複数の考えを扱うだけでなく、考え方がまちがったものを扱ったり、六角形を扱って一般化を図ったりすることで、より数学的な見方・考え方を働かせ、確かな知識・技能を身につける工夫がされている。

「大日本図書」は、子どもたちの思考の流れがわかるようにしている。考え方を例示したり、着目する点を示したりすることで、数学的な見方・考え方を働かせることを促したりしている。

2社共に、複数の考えを提示しているものの、「大日本図書」ではさらに、問題解決の流れを写真やイラストを交え示したり、友達の考えを吹き出しで書き示したりし、数学的な思考力・判断力・表現力の育成を促している。また、解決方法や話し合いの様子は、ページをめくらないと見えない作りになっているなど、手がかりを元に粘り強く考える児童を育てるところが優れている。

調査項目2の着眼点(2)について、今回、すべての教科書会社がデジタルコンテンツを充実させている。動画や自ら操作するもの、ヒント、練習問題など、様々なコンテンツが充実している。

そのなかで、特に、優れているのが、「東京書籍」「大日本図書」の2社。

「東京書籍」は、単元導入、問題の解決、演習及び理解の状況把握や評価、つまりきへの対策などに活用できるQRコンテンツを用意し、Dマークを使って示している。このページには、自分で答え合わせができるようにしている。

「大日本図書」は、動画、操作、振り返り、練習問題、グラフなどの記録用紙に分類してコンテンツが充実している。同じページにも、いくつかのコンテンツを用意し、学びが深まるような工夫をしている。このページには、困ったときに、自ら調べていくことができるような動画、追加問題やゲームによるたしかめができるようになっている。

この2社はコンテンツの数では、ほぼ同数ではあるものの、動画や振り返りについては「大日本図書」が圧倒的に多い結果となった。これは、児童一人一人が自らのタブレットで、自らの理解に合わせてコンテンツを利用し学べることにつながり、学習の個性化とも相まって、非常に優れていると考える。

調査項目3について、ふるさとや地域への誇りと愛着を持てる出版物になっているかについて述べる。「食べのこしを減らそう」「地球の気温」「バスのバリアフリーを考えよう」などの生活場面に算数を取り入れ、SDGsに関わる問題や話題を6社とも

提供している。どの出版社の教科書からも、それらの話題を元に、私たちの岐阜県や岐阜市の環境に目を向ける学習につなげていくことで、地域への誇りや愛着を育てていくことができると考える。

調査項目4について、造本について述べる。教科書の大きさについて。多くの会社はB5判なのに対して、「学校図書」は縦がB5の大きさで横はA4と同じ大きさになっている。また、1年生の教科書については、前期版が中綴じA4版を採用し、教科書の上でブロック操作を直接行い、考え作りができるようにしているのは「東京書籍」「大日本図書」「啓林館」の3社で、中綴じではあるがB5版になっているのは「日本文教出版」。そして、別冊にはなっているがA4判で背表紙がある「学校図書」となっている。

多くの会社で、分冊にすることで、教科書を軽くする工夫をしている。しかし、教える側からすると、後期に入って前期に学習したことを想起させながら考えさせたい場合に、前期の教科書がないのは指導がしにくいとも言える。また子どもたちも学習のつながりを意識していく中で、前の学習内容を確認したくても、使っている後期の教科書に載っていない場合があり、困ることになる。そう考えると、「大日本図書」は前期の内容も参考にすることができるのは良さであると考え。

ただし、合冊にすることで、1冊の重さは重くなる。しかし、分冊の上下を合わせた重さよりも重くならないように配慮がされているようだった。

多方面から述べてきたが、我々、調査委員は、「岐阜市教育委員会作成資料」の調査研究資料①を大前提に各教科書を研究してきた。この着眼点と、各教科書会社作成の編修趣意書を並べてみた時、合致している部分が一番多かったのは、「大日本図書」だった。

算数の調査研究委員会では、8名の研究員で6社の教科書を分析した。平等を期すために、最初は、1学年ずつ全て教科書を分析した。次に、個々にまとめた着眼点を、1社ずつまとめて評価をした。この評価をもとにして、上位になった、東京書籍と大日本図書について、再度、確認をしながら評価をまとめた。

その結果、誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちが、自らの才能を開花させ、幸せな未来をつくり出すための力を培う教育を推進するために、総合的に見て、「大日本図書」が、最も望ましいことを、私たちの見解とさせていただく。以上で報告を終わる。

#### 【教育長】

種目「算数」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

#### 【委員】

個別最適な学びという面では、大日本図書としての教科書がすぐれているなど私自身も感想を持たせていただいた。最初に配られた教科書展示会のまとめの中にある一般の方の意見で、大日本図書の不適切な対応について書かれていたのだが、そのことについてどのような検討をされたのか教えてほしい。

**【主任研究員】**

確かにそういう事実があったということは、話し合いをしたが、あくまで子どもたちがこれから4年間使い続ける教科書なので、教科書のよさ、それを指導する際の私どもの使いやすさ、子どもたちのウィークポイントにヒットするものであるかどうかということを最大限評価しようということで、調査分析した。

**【教育長】**

純粹に教科書編集のよさで判断をされたということによろしいか。

**【採択検討委員】**

算数の教科書について、いろいろなところで話題になっている。特に、岐阜市は、大日本図書を採択して長い。岐阜県で他の社を採択しているところもあるけれども、良いものを採択していると思っている。そうすると、なぜ大日本図書がそんなに良いのに、全国的にはシェアが少ないのか。そこが納得いかない。単に良いのではなく、岐阜県がやろうとしている算数、岐阜市がやろうとしている算数にあっているだけなのか、それとも本質的に算数の教科書として内容が良いのか。だったらなぜこんなたかが10%未満の100人に6人しか採択しない教科書を、一番だと言われるのかが、一般の方から見ると不思議に思われる。今、比べてみても、啓林館の教科書は見やすいし、開いてみても色合いも落ち着いて、構成も割とバランスもいい。啓林館もよいと思うがどうか。

**【主任研究員】**

大日本図書と東京書籍は、非常に迷いながら、評価したところ。岐阜県に合っているかどうかという質問があったが、どうやって個の学びが全体の学びと繋がっていくかというところが、一番大切にしていかなければならないことだと思っている。そうすると、大日本図書でいうと、じっくり深く学ぶということを単元の中で意図的に設定をしている。これは今までの熟練の先生方が特に時間をかけて授業をやられたところに当たると思う。それをどの先生が使ってもわかるように、教科書の中に表記してあることで、若手の先生も安心して授業ができる。東京書籍は5年生で言うとそれは3つぐらいしかない。

確かに東京書籍はわかりやすいように思うのだが、じっくり深く学ぶという、今の子どもたちに求められている姿からすると、その部分を改めて表記してあるということは非常に価値のあることと思っている。よって、大日本図書は採択率が低いという

話だが、非常に使いやすい。ここを重視して指導することが大事だということが、指導者の立場にとってもわかりやすい教科書になっている。あと啓林館についてだが、特にこれがいけないとか、あれがいけないっていうのはないのだが、逆に言うと東京書籍の教科書は、たくさんページに文字がありすぎるという気もしてはいる。それだけ大事なことを書くことで、すべての疑問や、子どもたちに必要な見方・考え方にも触れ、またはコンテンツからここへ学びに行こうというようなことを提示していることで、紙面がちゃんとしているというのは言われる通りである。しかし大日本図書で言うと、単元の最後のページ、最初のページなんかで、前の学年の教科書にコンテンツが飛べるようになっていたりして、教科書も確かに分厚いのだけれど、前の学習とつなげることも、意識した構成になっていると思っている。

#### 【採択検討委員】

私、岐阜市の算数の学習状況を十分認識してないのでわからないのだけれども、プレゼン全体で見た時になかなか小学校の算数は結果が出ないと言われ続けていて、その背景に、教科書の質があるのではないかとされている。その辺も含めて、何か教科書についてもう1回見直しをしようとか、この教科書を使ってこういう指導で子どもたちに力がついているのかとか、或いはこれから求められている算数における本質の学力が求められてということで決め出されているのか、その辺について調査研究委員で話題になったことを教えてほしい。

#### 【主任研究員】

皆さんには大日本図書の4年生の教科書の213ページを開いていただきたい。

先ほど紹介させていただいた画面にあるのは東京書籍のもの。

お手元にあるのが、開いていただいていると思われる、4年生の213ページの図。これを見ると、2本であるか3本であるかというような見方をどうしてもしがちなのだが、これ、大日本図書の次のページをめくっていただくと、この問題の解き方は0.2リットルが2デシリットルとか、0.2は0.1、2個分とか、 $0.2 \times 6$ は、整数に戻して考えるという東京書籍も同じような構成にはなっている。しかし、よく見ていただくと、東京書籍の方は、ちょっと見にくい。3本、線が入っているため。何が言いたいかというと、東京書籍の方は、実は、問題を解く際に、図を使って、図の中の0.1という塊を見て、それを演算決定から0.1のいくつ分っていう考え方でつなげている。

大日本図書もそこら辺はできている。今、岐阜市で大切なのは、図の中から0.1の幾つ分っていう知識だけではなくて、その図からも、関わらせて考えるということが必要になってくる。よって、先生方が、さらに子どもたちに理解を促すためには、線を入れた提示をしていくという工夫をしていく必要がある。そこの部分だけ見ると、東京書籍の方が、子どもたちの考えをつなげていくという力を育てていくことに優位

性がある。しかし、総合的には、調査項目、資料5番目の一覧表を見ていくと、やはり、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に身につけていく部分とかは、大日本図書であり、単元の中で大事にしたい時間を意図的に示しながら進めていける大日本図書が、良いという判断に至ったところ。

#### 【採択検討委員】

教科書が6社あるので、6社を横並びに見ると、単元の順番が若干違っていると思う。その部分で、調査研究の中ではどのような意見が出たのかということと、採択候補として大日本図書が選ばれている経緯が知りたい。

#### 【主任研究員】

学年内での、学習の中身は変わっていないけど、例えば今のように、少数を先に考えた、割り算とかかけ算とかやれば、少数の割り算かけ算が、図を使って考えたときに、線が途中で入ったりする。その前に、割り算掛け算で図を使って考えさせると少数の部分は、その中には入ってこないの、10の塊であるとか、一つ分はどれだけに当たるかというのを示したりするということがメインになってくる。だから、内容は特に大きく問題はないけど、そうやって図で表して考えていくと表現の仕方が少しずつ変わってくるということは、話題にはなった。だから、これが困るとか、だからこれでやると困るから、他の教科書の方がよいというような選択には至ってない。

#### 【採択検討委員】

17ページの調査研究資料の評価一覧を見せていただいたときに、着眼点の4番、印刷製本等で例えば、東京書籍の大日本図書、白丸が1つ付いている。実際に教科書を見たときに、ユニバーサルデザインの視点から考えると、大日本の方は、障がいのある子どもさんにとっては刺激が強すぎるのではないかという印象がある。あわせて、着眼点2の(2)のICTを活用した学習活動の充実ということで、デジタルコンテンツが大日本図書で充実しているというような調査報告だったが、やっぱり二次元コードの数がたくさんあるから、個別最適化っていうのは発想としてどうかなという疑問を持った。この2つが二重丸になると、大日本図書も東京書籍も同点。大日本図書にしたというその決め手を教員でない方にどうやって説明するのかということでお話いただけるとありがたい。願する。

#### 【主任研究員】

調査研究2の東京書籍のものと大日本図書のものとデジタルコンテンツについてだが、全部5年生について、数を調べて、コンテンツに何が入っているのかを全部見た。その結果、東京書籍は、練習問題の後に、答え合わせにコンテンツを使っている。これが非常に多い。大日本図書は、そうではなくて、動画とか振り返りがある。答え合わせではなくて、どうやって考えたらいいいのかとか、どういうふうに数直線を表す



かとか、場面の構成をどうやって考えて文章問題を読んだだけでは、子どもたちもわからないので、それを動画にして振り返ったりするコンテンツが非常に多いということがわかっている。

東京書籍は動画とか振り返りは37。答え合わせ207、操作は54。大日本図書は動画とかの振り返りは180、答え合わせは28、操作は54という形で、動画で導入したり、理解を促したり、最後に振り返りをしたり、前の学年の学習ではどうやってあったかというの、調べることができるような動画を、たくさん用意しているっていうことが、この数でもおわかりいただけるのではないかということを持っている。

また、見る方によって、それがきつい色なのかどうか。目にやさしいかどうかで、わかりにくいところがあると思うが、東京書籍でいうと、教科書は使用する色を少なくしている。わかりやすいように、はっきりした色合いを使っているというのは確かにそう思う。逆に、大日本図書はユニバーサルデザインを踏まえて配色しているので、ちょっとくすんだ色も使いながらノートを提示したりするということ色合いについては、大日本図書が派手な感じはしてはいるが、趣意書にもユニバーサルデザインを意識した配色してあるということ。しかし問題文にはすべて色がつけてあるので、少し派手には見えるが、やさしい色合いで提示してあるということの評価した。

#### 【採択検討委員】

一つ目だが説明の仕方だけかもしれないが、17ページにこの評価一覧があるのだが、最後お話された時に着眼点の項目で横に説明した。例えば1の(2)で特にすぐれていたのは4社あった。1の(3)で2社。2- (1)で2社。2- (2)で2社なのだが、そういうふうに見ていくと、例えば、1の(3)で言うと、大日本図書と東京書籍がすぐれていたという言い方なので、東京書籍も二重丸がつくではないかと思うが、その中で、同じように二重丸がつくけれども、1の(3)で言うと、より大日本図書の方が、考え方を育てやすいとか、或いは2の(2)のICTコンテンツでいうと、東京書籍も大日本図書も同様だけれど、大日本図書の方が、圧倒的に子どもに合っている。そういう言い方の方がわかりやすかったということを持った。それが一つ目。二つ目、岐阜市は、大日本図書の教科書を使っていて、去年の全国学調の正答率は大変高い。その中でも特に数量の求めることの知識・技能については大変高い。一方、高いけれども数量の求め方を筋道立てて自分の言葉で表現するところに弱さがあるという結果がある。実際、私も今年学校訪問に行っているいろいろな学級で算数の授業を見たが、自分の考えを操作して表現するところは良い。結果、知識・技能も身に付いている。ただ、ノートを見てみると、書いてない。筋道立てて考えるときに、統合的・発展的にとらえると簡潔明瞭・的確に表現することが重要。岐阜市の子どもたちに大日本図書が、考え方を自分で作っていく、表現するといったときに有効であるということがあれば

教えてほしい。

**【主任調査員】**

二つある。一つは自分の考えをノートに書くということと、いくつか友達考えが出てきたときに、それを同じようにどんどん書かせる。要は自分の考えで、当然答えまで導き出せるのだけど、いらない部分をより排除しながら効率よく考えたり、表現したりするためには、友達考えも同じように書くことが必要。その中からさらに自分で絞り込んでまとめが書けるということを目指している。だから、違う考えにつなげていけるという部分を作っていく必要があると思う。それは、先ほど言った、深く学ぼうというところをうまく利用することである。そして、もう一つは、単元を振り返るとか、単元全体振り返ろうというとき、確かめ問題の後ろの方にあるが、自分でわかったことを書き記していくっていう指導を大切にしていこう必要があると考えている。算数といえば問題が解ければいいというように思われがちだけど、それよりも、そこに至る道筋とか、どう考えたからこういうふうになったっていうことを自分なりに表現していくことは、今後さらに必要になってくると思っている。

**【教育長】**

今、17 ページの表について、二重丸、丸のこの項目自体の評価が違うのではないかと、いうところまでのご意見はないということによろしいか。

今、委員さんからあったように、岐阜市の子どもたちの実態とか弱点とか、筋道立てて考えると、そういったところを思うとこの 17 ページの表でいうと、1 の (1) とか (2) のところの大日本図書が二重丸の方がもっと嬉しい。

**【主任研究員】**

その通り。すべて良いという社はないので、こちらが充実すると、こちらの方がちょっとさらに欲しいなという状況にはなる。だから総合的に考えて選定している。

**【教育長】**

先ほど委員が話した意見が大切な気がするが、私も一つだけ聞かせてほしい。

先ほどから数直線とか線分図の扱い方についてはとても良いという話だが、単元内の教材の配列は極めて大事で、若い先生ベテランじゃない先生が教えても、主たる教材としての教科書が機能するためには、単元の中でも、教材の配列がすごく重要。算数数学で言うと、極めて顕著なのが例えば 5 年生の面積を、4 年生で長方形とかやった後に平行四辺形から入るか三角形から入るかって 6 社を並べると、三角形から入る教科書もあるし、平行四辺形から入る教科書もある。もっと細かく言うと、3 年生の割り算で、等分徐で入るか包含徐で入るかも極めて重要。これを各教科書で確認していたら、それぞれ異なっている。生活から考えて分けるっていうふうにすれば、1 人でみんなに 12 個の飴を同じ数ずつ配ると 1 人が何個になるかという等分徐の考え方

の方がいいだろうし、2年生の掛け算とリンクさせてくるとすれば、1人4個ずつ分けると何人に分けられるか。そういうふうになる。

それも教材の配列だけど、あと5年生の単位量でいうと、大抵は混み具合だけど混み具合って難しく、1人当たりこれだけの面積が取れるというのはよいが、1平方メートル当たり何人入るということになると、人間が2.3人とかで少数値のありえない数字になる。人口密度では、山の中に人いないのに均等に割るという考え方なので、教科書の単元内の教材の配列がものすごく重要。それは教科書選定の重要なファクターになると僕は思っている。例えば大日本図書とか、次は東書か、その中で、やっぱりこれいいよという事例があったら教えていただきたい。通常サポートについてはわかったが、その他の単元内での教材の配列で顕著なものがあったら願います。

#### 【主任研究員】

今、大日本図書と東書を比べているが、例えば、単位量当たりの大きさを、どうやって指導するかっていうことと、そのあと割合につなげていったり速さにつなげたりするような学びについては、それぞれ関連があるということを思ったり、あと例えば割り算とかけ算、同じ学年で学ぶのだが、すぐ続いて少数の掛け算を学び、割り算をやるのと、間を少し置いて、もう一度掛け算と割り算の振り返りを、学習の定着も含めて扱えるようにする教科書等はあるということは思っている。

#### 【教育長】

どっちかというより単元内というよりも、単元間の繋がりにってことに特徴があって、そこを大日本図書はうまく解決しているという考え方と理解すればよいか。

#### 【採択検討委員】

東京書籍と大日本図書とで比べていたのだが、例えば、一年生の長さを比べるところを開いたときに、大日本図書の方は、配慮してあると思える。左側が確かめになっていて右側に長さ比べでどちらが長いかと、全くヒントもなくスタートしている。東京書籍の方は、その長さ比べがあって、右側にもヒントがある。だからこういうような細かい配慮がある。他の単元では、左側に単元の1ページ目があるところもあるのだが、こういう長さ比べみたいなどうしたらいいだろうというのを子どもがまず自分の力で考えていこうとするような単元については、必ず右側に1ページ目が来ている。そういう細かい配慮が、どちらかというとその岐阜県・岐阜市の小学生を考えると、まず自分の考えから進めさせようと思うと、この形の方がよい。ヒントが少ない方がよい。どうしてもそれで進められない子は次のページ開けばヒントがある。そういう配慮ができていてということで、大日本図書は考えられていると思う。

#### 【主任研究員】

大日本は、考えづくりの時にも問題作りのページが、右側のページに来て、めくる

と考えが書いてあって、尚且つたくさんある場合は、さらにもう1枚めくると、その中に、角度が書いてあり、板書で先生が使えるページが作ってある。めくって考えていくという構成となっている。それまでに自分の考えづくりが行えるようなページの構成になっているということは、確かに指摘の通り。

#### 【教育長】

今の回答にあったのが結局、17ページの評価の主体的な1-(3)のところが大日本図書だけが二重丸になっている所以だと捉えればよいか。

ちゃんと子どもたちが主体的に勉強していけるようにしてあるところが強みであるということ。その他よろしいか。

いろんな意見出たが、評価についても、これを大きく変えるという項目は無しということではよろしいか。

それでは採決をしたいと思います。

種目算数の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて承認をいただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

#### 【理科：主任研究員】

理科の調査研究結果について報告する。

理科では、6者について、資料①の着眼点と調査の方法に基づいて、各者の特徴・よさを資料②③④にまとめた。

なお、文部科学省検定に合格した発行者は6者あったが、そのうちの1者「信州教育出版」から見本本の提供がなかったため、提供がなかった1者を除く5者について調査研究を進めた。なお、「信州教育出版」については、岐阜県教育委員会の調査研究結果をもとに、資料②③④を作成した。

調査研究の結果、「東京書籍」の評価が最上位となった。

特に、調査項目1(1)「資質能力の3つの柱をバランスよく育成する」について、理科の見方・考え方を意識的に働かせることを意図した工夫があること、調査項目2(2)「ICTを活用した学習活動を充実」について、二次元コードが掲載されており、1人1台端末で読み取ると、理科ノートがダウンロードできたり、実験方法の動画が見られたり、まとめの問題を解いたりすることができ、個別最適な学びに有効であるという点について、「東京書籍」の教科書が高く評価された。

それではまず、調査項目1(1)について、具体的に説明する。

理科は、自然の事物や現象の中に疑問を見つけ、その疑問を、観察や実験といった科学的な手法を用いて解決していく教科。教科の目標の一つとして、問題を解決する力の育成が挙げられている。

現行の学習指導要領では、問題解決の力を育成するために、問題解決の過程において、理科の見方・考え方を働かせることが重要とされていることから、調査項目1－(1)では、理科の見方・考え方の扱われ方について調査した。

6者すべての教科書に「理科の見方・考え方」が示されており、教員はもとより、児童自らが、理科の見方・考え方を働かせながら問題解決に当たっていこうと意識することができるよう構成されている。

一方で、その「示し方」や「示す場所」には、各発行者によって違いがあった。

そこで、理科の見方・考え方をどのように示しているのか、また、示す場所が「単元の冒頭なのか」「学習ごとなのか」、または、「巻頭や巻末に示しているのか」などの特徴を、調査研究資料に示した。

それらの特徴を、第6学年の単元「燃焼の仕組み」を例に説明する。

初めは、「東京書籍」。教科書11ページをご覧ください。理科の見方は、「虫眼鏡をもったパンダのキャラクターの発言」として示されている。ここでは、「原因と結果」という見方が示されている。

教科書20ページをご覧ください。理科の考え方は、「あごに手を当てたパンダのキャラクターの発言」と「子どものキャラクターの発言」として示されている。ここでは、「多面的に考える」という考え方が示されている。

次に大日本図書。教科書12ページ。理科の見方は、「ココに注目」として示されている。ここでは、「関係性」という見方が示されている。教科書14ページ。理科の考え方は、「うす紫色の、“〇〇するコツ”キャラクターの発言」として示されている。ここでは、「多面的に考える」という考え方が示されている。

次に学校図書。教科書3ページ。理科の見方である「質的な視点」が巻頭の資料に示されている。教科書18ページ。「多面的に考える」という理科の考え方が、「児童キャラクターの発言」として示されている。

次に教育出版。教科書20ページ。理科の見方は、「桃色のカギのマーク」と「児童キャラクターの発言」として示されている。ここでは、「原因と結果」や「部分と全体」という見方が示されている。教科書12ページ。理科の考え方も、「桃色のカギのマーク」と「児童キャラクターの発言」として示されている。ここでは、「推論する」という考え方が示されている。なお、「見方」および「考え方」にかかわる部分は、桃色の網掛けで強調されている。

次に信州教育出版。理科の見方・考え方は、「児童キャラクターの発言」として示されている。

次に啓林館。教科書17ページ。理科の見方が、「児童キャラクターの発言」として示され、緑色のアンダーラインで強調されている。ここでは、「質的な見方」が示され

ている。教科書 15 ページ。理科の考え方が、「児童キャラクターの発言」として示され、緑色のアンダーラインで強調されている。ここでは、「比較したり」「条件制御したり」する考え方が示されている。

以上 6 者の教科書を比較すると、巻頭の資料や単元の冒頭にキャラクターの発言等で理科の見方・考え方が記載されている教科書があるなか、「東京書籍」においては、理科の見方・考え方が、学習内容ごとに、具体的な表現で記載されていた。よって調査研究員会で「東京書籍」を評価する声が多くあった。

続いて、調査項目 2 - (2) ICT を活用した学習活動の充実について、特にプログラミングに絞って説明する。プログラミングとは、簡単に言えば「ある計画を実現するために手順を作成して実行させること」。

現行の学習指導要領では、このプログラミングを第 6 学年の理科の単元「電気の利用」の学習で行うことが例示されている。

「教科書発行者が教材を用意している」「市販の教材やフリーの教材を紹介している」「教科書に掲載した二次元コードから読み込み、教材を使用できるようにしている」などの特徴を、調査研究資料に示した。

初めは、「東京書籍」。教科書 147 ページ。電気を効率的に使うという理科の学習内容と関連付けながら、プログラミングを体験する活動が設定されている。教科書 148 ページには、プログラミングの体験ができる教材が紹介されており、また、プログラミングが体験できる教材（ソフト）が用意され、2次元コードから読み込むことができる。また、巻末の 200 ページ。ここでは、地震による被害を小さくする目的で、電気ヒーターをプログラムするプログラミング体験ができる。さらに、全学年の巻末に「理科とプログラミング」を設け、学んだことを生かしてプログラミングが体験できるようにしている。これは第 3 学年の巻末 176 ページ。二次元コードを読み込むとまわりの物のなかま分けのプログラミング体験ができる。

次に大日本図書。教科書 185 ページ。街灯が夜になると点灯するという身近な事例を再現するプログラミングを無理なく体験する活動が設定されている。186 ページには、プログラミングの体験ができる教材が紹介されている。また第 3 学年から第 5 学年に、コンピュータを必要としない「アンプラグド」のプログラミングを意識した場面を掲載している。これは第 3 学年の 173 ページ。

次に学校図書。教科書 195 ページ。理科の学習内容との関連付け、暗くなると自動的に街灯の明かりがつく生活場面を再現するためのプログラミングを体験する活動が設定されている。199 ページには、プログラミングが体験できる教材（ソフト）が用意されていて、2次元コードから読み込むことができる。175 ページには、フローチャートを使うことで、プログラミング的思考を使いながら水溶液を見分ける問題を扱

っているという特徴もある。

次に教育出版。教科書 187 ページ。夜になると自動的に光る道路標識など、生活と関連付けながらプログラミングを体験できるようになっている。188 ページには、プログラミングの体験ができる教材が紹介されていて、2次元コードから読み込むことができる。

次に信州教育出版。身の回りの電気器具と関連付けながらプログラミングを体験する活動が設定されている。また、プログラミングの体験ができる教材の紹介もされている。

次に啓林館。教科書 182 ページ。電気を無駄なく使うことを目的としたプログラミングを体験する活動が設定されている。183 ページにはプログラミングの体験ができる教材の紹介がされており、183 ページ、184 ページには、プログラミングの体験ができる教材（ソフト）が紹介されていて、2次元コードから読み込むことができる。また、このような「やってみよう！プログラミング」を全学年に設けている。これは第3学年の教科書 55 ページ。二次元コードを読み込むと、理科でのプログラミング的思考の入り口として、風の強さを調節して目的の位置に車を止める「駐車場ゲーム」が体験できる。

以上6者の教科書を比較すると、すべての発行者が第6学年の教科書にプログラミングを掲載している。

各発行者とも、例えば「節電する」という目的のために、明るい日中や、夜でも人がいない時は消灯するようプログラミングされた電灯など、住まいや社会の中には、有限なエネルギーを無駄にしないようプログラミングされた器具がいくつもあるという文脈で取り上げられているが、一方で、各発行者において「教材の違い」には違いが見られた。

「東京書籍」では、理科の学習内容との関連付けを図りながらプログラミングを体験できる活動を設定している。また、プログラミングの体験ができる教材の紹介をするとともに、教材（ソフト）の用意もしており、教科書の2次元コードから読み込むことができる。以上のことから調査研究員会で「東京書籍」を評価する声が多くあった。また、「東京書籍」は、3年生から5年生においてプログラミング的思考を段階的に育成するよう、巻末に「理科とプログラミング」を設けていることについても、高い評価を得た。

「東京書籍」の教科書において、その他、高い評価を得た調査項目について具体的に説明する。

調査項目 1 - (2)「他教科等の関連」については、第3学年「風やゴムのはたらき」では生活科とのつながり、第3学年「音の性質」では、音楽科とのつながりが記載さ

れている。このように、単元の導入に他教科とのつながりが記載されており、学習の基盤となる既習事項を振り返ることができるようになっている。

調査項目 2 - (3)「特別支援教育、多文化共生への配慮」については、第4学年 190 ページには、車いすにのった児童のキャラクターが描かれており、第5学年 139 ページには、外国人児童の写真が使われている。このように、多様な児童が共に学ぶことができるように配慮されている。

調査項目 3 - (1)「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」については、第5学年「流れる水のはたらき」において、長良川が紹介されている。車いすにのった児童のキャラクターが描かれており、第5学年 139 ページには、外国人児童の写真が使われている。山の中、平地へ流れ出たあたり、平地と場所による違いについて、写真を用いて考えられるようになっている。

これら3つの調査項目について「東京書籍」が高い評価を得た。

以上で、理科の報告を終わる。

#### 【教育長】

種目理科についての調査研究報告について質問意見を受ける。

質問意見はないか。

#### 【採択検討委員】

2番の調査項目 2番の(3)の多様な学びを支援する教育の充実ということで、午前中の教科と、今、理科を並べたときに、理科は特別支援教育に特化して書いている。その主張はよいと思う。例えば算数だと発展問題を解くとか、いわゆる個に応じた学習について記述している。理科におけるこの多様な学びについて、もう少し説明をしていただきたいのが1点目。

あと2点目は、東京書籍の調査研究資料の同じく 2、(3)のところで、すべての漢字にフリガナがついているということで高く評価をしている。岐阜市の教育振興計画の基本目標 2を見たときに、主体的かつ共同的な学びを通じてということで、自ら学ぶ子どもたちを目指していると自分ではとらえている。よって、最初からフリガナを振ってあるのではなく、漢字に自ら、フリガナをふっていくことを大事にする。このあたりのとらえについてもあわせてご説明いただきたい。

#### 【主任研究員】

まず1点目の多様な学びのところ、個別最適な学びについては、2-1の項目のところに入っており、二次元コードを読み取ることにより、発展的な学習の部分だとか、その教材の内容に関する動画が見られたりする。

こちらの3番の多様な学びについては、多文化共生及び特別支援教育に絞って書いている。



それからフリガナについては、動画の部分で、フリガナはオンとオフができる対応があるので、必要であればオンをすとか、そういうことができる。

**【教育長】**

よろしいか。

**【採択検討委員】**

東京書籍と教育出版が高得点で、1の着眼点学習指導要領はほぼ一緒だと見解であった。3番の岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書か、ということで、教育出版も私が見る限り同じように、長良川だとか濃尾平野だとか映像等も扱っていて、岐阜市ではないが、有効に扱っている。二重丸と丸の差はそんなに感じない。具体的に、東京書籍を二重丸にした理由があったら、教えていただきたい。

**【主任研究員】**

東京書籍は、この部分の写真。

岐阜市は、長良川について上流と下流ということで2ヶ所、このサイズで、写真が示されている。平地の部分については、岐阜市が紹介されている。

東京書籍だが、見開き1ページを使って、それぞれ上流と、平地に流れていた辺りの写真を大きく扱っている。それからその右側に石の大きさが分かる写真を掲載していて、全体の様子や幅が比較しやすい配置にしてある。それにより3ヶ所について比較できるので、東京書籍の方に二重丸をつけた。

他にも御嶽山を扱っており、岐阜市ではないけど、岐阜県の教材も東京書籍は扱っている。身近な自然風景も含めて取り上げているので、岐阜市の児童にとって最適であるという評価をした。

**【教育長】**

その他ないか。

**【採択検討委員】**

二つだが、一つは理科の見方・考え方についてということで、1-1で説明していただいたけれども改めて聞く。理科の見方・考え方というのは、他の教科と違って、具体的にイメージできると思う。例えばエネルギーとか4領域について、或いは学年ごとによって、内容も変わってくると思うので、その学年ごとのつながりとか、その領域ごとのつながりに関わって、東京書籍が大変有効であるということがあれば教えていただきたいことが一つ。

二つ目は、岐阜市の全国学調について、理科は全体的に全国平均を大きく上回っている。それでも弱いところはあって、実験結果や得た情報を分析・整理し、自分の言葉で記述するというところが弱い。岐阜市の子どもで6割程度はできていないということ。そういった子どもたちが情報を整理・分析しながら自分の言葉でまとめていく

というところで、東京書籍で何か有効な部分はあるか。あれば教えてください。

#### 【主任研究員】

まず1点目の理科の見方・考え方については、4領域でそれぞれ具体的な視点があり、どちらかと言うと教材によるものが大きい。縦の発達段階に応じてということについては、考え方が積み上がっていくということ。見方についてはエネルギー領域においても、3年生が6年生まで、例えば粒子概念の粒子という捉え方が違うということ。東京書籍だというよりもこれについては、それぞれの教科書において扱い方が、同じであるように思う。

ただその考え方については、3年生で例えば比較するとか、4年生で関係付ける、5年生で条件整備をする、6年生多面的に考えるということだが、これは二つ目の質問に繋がっている。学年の発達段階に応じて、いろんな考え方について付加していくし、今のところ全国学調で理科は岐阜市が非常に高い数字。

東京書籍の教科書を使っているということが関連しているかはわからないが、結果は出ている。特にこの「考察しよう」のところで、二次元コードがついていて、話し合いの例とか、この話し合いではこの視点を活用するとか、子どもたちの活用事例だとかという、理科の専門でない教師に対して、こういうような視点で話し合いをしていけばよいということがわかりやすく示してある。そして話し合いの例を教師も見ることができし、子どもも見ることができるので、東京書籍の評価を高くした。

#### 【採択検討委員】

この17ページの調査研究資料からいうと、東京書籍が13点で、教育出版の11点になっている。この二つを比較したときに、理科は3年生からスタートする。それまでは生活科の学習だが、その生活科から理科へ移り変わるという、理科のスタートという点で、二つの教科書で何か比較したとき、話題があれば教えてください。

#### 【委員】

東京書籍では、まず単元の導入にレッツトライという場面があり、まず問題を見いだす活動を続ける。生活科では、遊びの中から問題を見いだすという活動を位置付けている。

また、冒頭の部分の問題をつかもうでは、レッツトライの活動を基に、話し合いを通して主体的・対話的に問題をつかむという活動を位置付けている。例えば風やゴムの働きのところ、まずレッツトライでは風で動く車で遊ぶ。遊ぶ中で、気づいたこと、それから疑問に思ったことを話し合って、主体的に問題をつかんでいく。そういう生活科の遊びとつながる。そうした意識のある東京書籍について評価している。

教育出版については、「見つけよう」というページがあり、最初に、子どもが主体的に問題を見つけられるように配慮したページがある。そのあとの問題を作るという場

面において、東京書籍の方が、話し合いの方法を丁寧に掲載していたので、東京書籍の方を評価するという声があった。

**【教育長】**

よろしいか

**【採択検討委員】**

生活科との接続なので、3年生が中心だと思ったのだが、他学年にもレッツトライがあって、それは生活体験と結びつけようという意図なのか。

**【主任研究員】**

はい。生活など、既習学習のところを振り返ることや思い出すことが大切。「思い出そう」という、前の学習とのつながりのところとか、例えば5年生も「思い出そう」とか、そのような、既習事項等だったりとか身近な生活だったりとかそうしたところから問題作りをしていく、そういう、構成がされている。

**【教育長】**

その他いかがか

では質問意見が出たようなので、採決をしたいと思う。

種目、理科の調査研究報告が適切かつ十分なものやっであることについて承認をいただけるか。

承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

**【生活：主任研究員】**

生活科・5名の研究員の検討結果をお伝えする。

まず、調査研究資料①。市から依頼を受けた教科書会者7者について、調査項目及び着眼点をうけ、生活科の新学習指導要領の目標や改善点、学習指導の進め方をもと、生活科の本質や指導に関わって、次の5点を大切にすることにした。①「身近な生活に関わる見方・考え方の扱いや安全に関わる配慮」、②「見付ける、比べる、たとえる等の学習活動」、③「学習したことを振り返り、自身の学びや変容を自覚できる機会」、④「気付きの質を高めるための表現活動」、⑤「児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする」。この5点に関わる紙面内容を、特に審査の対象にすることや、教科書を使用する岐阜市内在住1・2年の子どもたちの発達段階、生活・教育環境などから『調査の方法』を定めた。

「評価一覧」。着眼点ごとに、教科書7者の比較調査を行い、それぞれの評価をして、集計した結果、私たちは「啓林館」という結論に至った。各者のそれぞれのよさについては、「調査研究資料④」にまとめてある。選定した理由を「啓林館」と他者との比較等で、具体的にお伝えする。

まず、調査項目1(1)「資質・能力の三つの柱(「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養)をバランスよく育成」という点から説明する。

啓林館は、安全に関わる配慮として全体で、31頁の記載がある。また、上巻「スタートブック」「安全にすごそう」には、入学直後に交通安全を取り上げ、子どもの意識を高めたいことがわかる。また、危険な生き物への注意喚起、熱中症への配慮が掲載されている。教育出版では、上巻「げんきにすごそう」に、地域や学校での安全や災害時の対処法について示されているが、全体を通して、安全指導は18頁の記載になっている。このように啓林館のように安全指導に30頁を超えて掲載している者は他にはない。

次に調査項目1(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」という点。

啓林館では、下巻の「もっとしりたい たんけんたい」では、これまでの自分を見つめ、振り返る機会が設定できるようになっている。東京書籍下巻の「もっとなかよし まちたんけん」では、振り返りの場ではなく、学習をまとめる場と設定されている。単元毎に、「できるかな できたかな?」「ひろがるきもち」など自己の成長を確かめる場が常に設定されている。

3つ目に、調査項目4「印刷・製本等(1)教科書の厚み、重量」という点。啓林館は、上下巻ともに大きさがA B判で、重量は、上巻323g、下巻286g。この教科書のA B判は、仕切りのある引き出し半分にスッポリ入るし、ランドセルにも、しっかり収まる。他者の教科書はA 4判が4者、A B判が1者。どれも、啓林館のものよりも大きくなっている。啓林館は子どもたちの毎日の教科書の持ち運びの負担の軽減につながり、整理・整頓もしやすい。

4つ目に、調査項目2(3)「多様な学びを支援する教育の充実」という点。

啓林館では、小学校への入学前の写真を掲載したり、仲間との会話を吹き出しで表したりしている。そして、協働的な学びを促す学習環境の例として、下巻の「もっとしりたい たんけんたい」では、ICT機器の活用、板書の活用、机のレイアウトを含む設定などがイラストで示してある。東京書籍では、下巻の「もっとなかよし まちたんけん」では、仲間と一緒に楽しんだりする写真やイラストを通して、仲間との様々な関わり方を示している。しかし、この取り上げ方は、板書例が示されていない。学習環境や学習の進め方を示す例として、啓林館は大変分かりやすく示されている。最後に、これは啓林館のやや課題になるが、調査項目3(1)「岐阜市の児童の実態等に適した教科用図書・ふるさとや地域への誇りと愛着をもち続けること」という点から説明する。光村図書では、地域に関わる単元は4つ掲載されている。啓林館と同様に、掲載されている季節、公共施設の使用や設備、生き物などでは岐阜市の公立小学校に

適している。さらに、光村図書では、広がる生活辞典に、岐阜市に関わる写真「岐阜市のバス」や「長良川のりっこう」が紹介されている。啓林館では、地域に関わる単元は3つある。この3つの単元に掲載されている季節、公共施設の使用や設備、生き物などは、岐阜市の公立小学校に適しているが、光村図書のように「ふるさとや地域への誇りと愛着をもち続けることができる」資料の取扱いがやや小さい。

先月の6月14日から27日、教科書法定展示会で出された「意見書」の中に、啓林館についての意見はなかった。

以上のことから、生活科5名の研究委員の検討及び集計結果としては、「啓林館」となった。審議のほどよろしく願います。

#### 【教育長】

種目「生活」についての調査研究報告について質問・意見を受けつける。質問・意見は、ないか。

#### 【採択検討委員】

それぞれの者の違いや特徴がよく分かった。幼保小の円滑な連結について、特に「思考・判断・表現」について聞きたい。岐阜市では幼保小の連携プランを作成し、特に幼児期の活動、遊びを通した学びを生かして、ぎふMIRAI'sなどで生涯を通して探求していく力をつけていくことを大事にしている。幼保の学びを思考・判断・表現で引き出す、生かす点で、どのような点が優れているのか。

#### 【主任研究員】

スタートカリキュラムについて、幼児教育とのつながりは啓林館では13頁にわたって扱われている。これによって、幼児期の学びを小学校に丁寧につないでいる。入学当初緊張感のある子どもにとって、幼児期に親しんだ遊びを想起させることで、緊張をほぐすような写真が啓林館には掲示されている。

#### 【採択検討委員】

理科や社会の考え方に発展していくようなものが生活科や幼稚園の教育にもあると思うが、そのような視点からはどうか。質的な側面からはどうか。

#### 【主任研究員】

幼稚園の活動の中で親しんだものを、写真の例示により親しんでいけるようにしている。理科や社会へのつながりという点から、啓林館は単元を「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」と分け、「わくわく」では単元の見通しを持つ、「いきいき」で調べるなどの活動、「ぐんぐん」で学んだことをまとめたり発表したりする。一連の流れが理科や社会の予想や調べる活動につながっていく。非常に進めやすくなっている。

#### 【採択検討委員】

東京書籍の観察図鑑は、説明が詳しくてよい。若い先生もこうやって書けばいいと

いうのがよくわかる。啓林館はそういう箇所がないような気がする。サイズが小さくなっていいということだが、写真がその分小さくなっている。

**【主任研究員】**

図鑑は東京書籍のほうが多い。ただ、ICTの活用、二次元コードの利用で補っていける点もあるという結果になった。写真の大きさについては、タブレットで写真を見れば、一人一台端末の中で補っていけると考えた。

**【採択検討委員】**

啓林館は13ポイント、東京書籍は12ポイント。現行の東京書籍から変わる説明。1の視点から見ると両者とも◎。啓林のほうが良いとする理由は何か。

**【主任研究員】**

東京書籍も他教科との関連は多くの内容が掲載されている。その点からすると、両者とも◎。両者ともこの点は優れているというそれぞれの良さがあった。トータルで勘案したところこのようなポイントの差になった。

**【教育長】**

もう少し強力な推しはあるか。

**【採択検討委員】**

現行のものよりも啓林館のほうがより使いやすい、子どもにとって使いやすい、という判断なのか。両者見ていて、東京書籍のほうは教科書が大きいという点では、デメリットでもあるが、写真は躍動感があって良い。1年生の子にとっては、やってみたいという思いになるのではないか。東京書籍のほうがスケールや景色がすごく良い。啓林はモノトーンでマンガ的な表現。子どもが手に取る生活科の教科書として、質はそんなに変わらない。見た目や手に取った感触、教科書を開いた時の感動という視点からすると東京書籍のほうがよいのではないか。

**【主任研究員】**

写真の大きさやイメージについては東京書籍のほうが良いという意見もあった。しかし、全部の視点から検討した結果は1点差になっている。両者それぞれの良さがあり、トータルでの得点を検討結果として出している。学習の振り返りや、接続、スタートブックなど調査項目の着眼点1がすべて◎という点が良いという結論になった。(着眼点2の)岐阜市の教育振興計画についても◎一つ、○2つは両社とも同じになっている。推す点としては、調査項目の1がすべて◎という点である。

**【教育長】**

学習指導要領についての視点で啓林館は◎の数が違うという点は強い。逆に教育基本振興計画では両者とも同率。

具体的に、東京書籍「はなをさかせよう」啓林館「わたしの花をそだてよう」を比

較してどうか。微妙に教科書の編集の意図は違うと思うが、どうか。

**【主任研究員】**

写真の大きさ、インパクトは東京書籍のほうが優位。「わたしの花をそだてよう」では、自分事としての学習と考えると、啓林館のほうが学習の意図によく合っている。

**【採択検討委員】**

交通安全の話があったが、小学校から自分の力で登校するということもあり、その点は大切だと思った。小学校の通学路でも事故があったから、そこに重点を置いている啓林館のほうがよいということになったのか。

保育園や幼稚園で育てているものについて、家族でも話題になることがある。家族の会話が広がるという視点からすると東京書籍のほうが良いような気もする。

**【主任研究員】**

子どもたちは自分たちで歩いて通学することになるので、この学習の中で交通安全についての理解をしていく必要はある。公園に出かけたりする活動でも交通安全は生活科の中でも必要となってくる。生活科ではいろいろな安全指導が必要となってくるが、そこに重点が置かれていることを評価した。

**【採択検討委員】**

親の意見として、東京書籍は（成長の様子が）順番に提示されている。啓林館は最初「わたしのはなをそだてよう」から、「なんのたねかな」となり、何の種かを考えさせている、子どもたちに考えさせる構成となっており、この流れはわかりやすい。また、しおれた後も種の絵を3種類に分けて提示し、最後は簡潔に、しっかりと写真が載っている点で、啓林館の方が良いと感じた。

理科で東京書籍、生活で啓林館となった場合、先生としては、同じ出版社のほうが学習の流れが同様に良いという感覚なのか。

**【主任研究員】**

学習の流れとしては、同じ教科書会社だと生活科から理科や社会につながった時、レイアウトや慣れた写真ということで良いという点もあるだろう。しかし、学習の流れとしては、同じような流れで学習していくことに変わりはないので、大きな支障はないと考える。

**【採択検討委員】**

先生の立場で考えると、岐阜市は初任者が多く、2年生の担任をすることが多い。教室の後ろに観察カードが掲示してあることも多い。東京書籍の方が意図ははっきりしていて、子どもたちが五感を使って考えたり、比較して考えさせたりしている点などがはっきりしている。

今回の学習指導要領では全教科で「見方・考え方」を大事にしており、それが「ぎ

ふMIRAI's」につながって、総合的に働かせるときに東京書籍のほうが良いのではないかな。

**【採択検討委員】**

生活科は出版社が変わるということがポイントだと思ったが、説明を聞いて、それぞれの項目で審査し、最終的にトータルの得点として、こうなったということをわかっていただくしかない。前は東京書籍の方が優位だったということなのかもしれない。トータルとしてこういう結果になったということなら、それを理解していただくしかない。

**【採択検討委員】**

私が思うにこの1ポイント差はそんなに大きな差とは思わない。◎と○の違いもよくわからない。どちらが良いということは明確にわからないが、単純に教科書の厚み、重量、文字の大きさは一緒に判定してもよいと思う。重量から言うと、啓林館は軽い。親からするとそれは良い。写真でいうと、リアルなほうが良いと思う。しかし、生活科では、実際に実物を見て学習していくもので、写真がそんなに大切なのか。実際にどうするかを考えていくことが大事。生活科の教科書は家庭にはほとんどなく、学校にそのまま置きっぱなしということで、ほとんど家で開けていないので、学校でどのように使っていくかがポイントだと思う。

今までと同じもののほうが教えやすいのではないかなと思うが、自分が教師の立場なら同じほうが使いやすいと思うが、1ポイントの差で変わるという強みがあるのならいいのではないかな。

**【主任研究員】**

社会や理科へのつながり、幼児教育からのつながりという視点からすると◎がついているという点が大きいのので啓林館を推している。

**【教育長】**

1ポイント差ではあるが、啓林館の方が子どもたちに役に立つ、という意見だった。委員の中でも変えないほうが良いという意見と、啓林館のほうがおもしろいのではないかなという意見があった。

**【採択検討委員】**

生活科は上下とあるが、今の1年生は上下とも持っているのか。

**【事務局】**

啓林館に変わったとしても来年度の2年生は東京書籍。来年度の1年生から啓林館になる。

**【副主任研究員】**

「できるかな できたかな」は学習の振り返りにおいて重要で、強調されている部



分である。アサガオの写真も単元の目的からすると、「どんなはなをそだてたいのかな」だと子どもたちは単元のゴールを考えるのではなく、「どんな」という点に重点が置かれる。啓林館「わたしのはなをそだてよう」となっており、子どもたちが見通しをもち、学習の進め方をスムーズに教えていくことができる。特に「わたしの」という言葉を入れることで、自分が育てたという思い、自分が気づいたということ、愛情をこめて成長させていこう、という教科書の仕組みになっている。それが売りになっている。毎日花に水をあげて成長させていく、その中で自分のものとして、学習を進めていける。

東京書籍は見つける、比べる、とあるが、1年生のこの時期の発達段階として、子どもたちは理解できるのだろうか。啓林館は子どもたちが活動しているものを示し、遊びの延長として活動している様子が掲載されており、こちらのほうが非常に強く推すことができる。

**【教育長】**

学びの主人公は子どもであるので、学びのつながりが意図的な啓林館を推してもらっている。

**【主任研究員】**

学びのつながりという点で見ていただくと、花が開いてしぼんで、その後どうなるのか、ということで子どもの思考の流れ、次に連続していくという点で教科書にしっかりと示されているのが啓林館。これも啓林館の特徴で、他の者にはない。それが着眼点の1に◎が3つついている理由でもある。

**【採択検討委員】**

現行の東京書籍の教科書、啓林館の教科書があるが、逆転したということによいか。

**【主任研究員】**

今回研究をした結果、啓林館の中身が良くなってきているということで、私たちは報告させていただく。

**【教育長】**

現行の東京書籍は今まで使ってきたという実績はある。しかし、啓林館の方が今回はよかったということによいか。おおむね、委員の皆さんのご了解をいただいた。採決をさせていただく。審議の過程でこのような意見が出たということは伝えさせていただきます。

それでは、採決をおこなう。

種目「生活」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。

(全員挙手により承認)

## 【音楽：主任研究員】

小学校「音楽」における調査研究結果を報告する。調査研究委員会では、「岐阜市教育大綱」や「第4期岐阜市教育振興基本計画」をもとに、学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、音楽的な見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現に向け、個別最適で協働的な学びの充実を目指すことに視点を置いて調査研究を進めた。調査対象の「教育出版」「教育芸術社」の2者について、本資料に示した大きく4つの調査項目から調査研究し、そのうち、本日は違いが顕著にみられた3点を中心に報告する。

調査項目1は、学習指導要領に示された「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の育成について話す。音楽科では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。つまり、音楽科における資質・能力とは、児童が自ら音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉えることがもとになっている。6年の鑑賞の活動を例に、話す。「教育出版」6年30・31ページをご覧ください。音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」として掲載し、「学びナビ」でその要素の働きを生かした学び方を提示している。この楽曲では、二つの旋律が二つの楽器で、繰り返しや変化をしながら演奏される面白さを感じ取る学習であり、楽器の絵や「ひきまね」という身体表現からも、反復と変化に着目して学ぶことができるようになっている。「教育芸術社」6年34・35ページをご覧ください。音楽を形づくっている要素を「着目するポイント」として掲載したうえに、「考える」でも「繰り返しや変化」に注目するよう促している。この楽曲では、旋律の繰り返しだけでなく、強弱や速度、調によって変化がもたらされることにも、指揮やワークシートを通して気付くようになっている。さらに、その気付いたこと、要素の働きから感じ取ったことを関わらせ、仲間と話し合いながら学ぶことができるようにもなっており、より主体的・協働的に学ぶことができる。資質・能力を確実に育成するには、各学年・各題材での学びが系統的・発展的に配置されている必要がある。「教育出版」4年26・27ページをご覧ください。

旋律の動きを視点に作った短い音型をもとに、仲間と相談しながらつなげて、4小節の旋律にする学習である。旋律の音が上がったり下がったりすることが旋律づくりを通して理解でき、さらに、「もっとあそぼう」でリズムや拍子といった要素にも着目させている。旋律の動きに、リズムや拍子という他の要素と関わらせて、かなり発展的に学ぶことができる学習となっている。「教育芸術社」4年30・31ページをご覧ください。旋律の特徴について、この題材でどのように学ぶかが題材名の下にある。また、「おもいだそう」のコーナーで、前学年で学んだ「ふじ山」の旋律の上がり下がり

を想起できるようになっている。さらに、旋律の上下によって歌い方の強弱が工夫できる学習になっている。加えて、新しく「スタカート」を学び、「はずんだ旋律の感じ」を次ページのリコーダー曲で生かすことができるようになっている。続く鑑賞曲でも、はずんだ旋律となめらかな旋律が比較できるよう配列されている。題材の最後には、ここまでの学びを生かして発展的に歌い方を工夫する歌唱教材が配置され、題材のまとめが書かれている。このように、一連の題材の流れのなかで、歌唱・器楽・鑑賞などの活動が適切に配列され、題材を通して系統的・発展的に学ぶことが大変よくできるようになっている。

次に、調査項目2についてご説明する。一人ひとりが自分で学びを進めることができるような工夫が両者ともあった。リコーダーの導入を例に説明する。

「教育出版」3年18・19ページをご覧ください。リコーダーへの興味を高めるために、数多くの鑑賞曲が配置され、次ページで「シ」の音から練習できるよう二次元コードの動画が用意されている。同様に、次の「ラ」や「ソ」にも二次元コードから音源が用意されており、自分のペースで音源を聴きながら、繰り返し練習に取り組むことができる。「教育芸術社」3年20・21ページをご覧ください。

リコーダーという楽器自体に興味を高められるよう、頭部管を使った音遊びが例示され、児童の意欲や関心に沿った導入となっている。次のページからも、座り方や構え方、ティッシュを使ってタンギングを確かめる遊びなど、一人ひとりが楽しみながら丁寧に学び進められるようなイラストや写真がある。「シ」「ラ」「ソ」の音についても、2次元コードからの音源があり、短音だけでなく2音3音と増やしていくことで、自然に旋律を演奏でき、リコーダーが自分で演奏できるようになる喜びが味わうことができる。

3つ目に、調査項目4の印刷製本等について説明する。ここでは、紙面の図版や文字、巻末資料について調査したことを話す。「教育出版」5年10・11ページをご覧ください。ここは、共通教材の「こいのぼり」のページだが、3ページ分を使った見開きで、「薨の波」を高く泳ぐこいのぼりの写真が掲載され、歌詞の情景を一目で想像することができる。また、こいのぼりだけでなく、その背景も映っていることで、豊かにイメージすることができる。映像と音楽から感性が醸成されることが十分期待できる。「教育芸術社」5年12・13ページをご覧ください。同じく「こいのぼり」のページである。こちらは、こいのぼりが力強いタッチの絵で描かれている。色覚特性をはじめとしたさまざまな状態にある児童に対応できるよう、歌詞は、白い背景に黒文字を配して、見やすくなっている。

最後に、巻末のページについて調査したことを説明する。「教育出版」2年の巻末74・75ページをご覧ください。この学年で学んだ音楽を形づくっている要素が「おんがく

のもと「まとめ」として掲載されている。学年の発達に即して多くがイラストでまとめられており、大変分かりやすくなっている。また、「音楽の感じを表す言葉の例」があることで、感じたことを他者に伝える語彙が増え、言語活動が活発になることが期待できる。「教育芸術社」2年巻末80ページをご覧ください。こちらはこの学年で学んだ音楽を形づくっている要素について、学んだ学習活動をもとに「振り返りのページ」として思い出すことができるよう、写真や絵で掲載され、当該ページに戻って振り返るよう指示されている。さらに「教育出版」5年巻末81ページと、「教育芸術社」5年巻末84・85ページをご覧ください。どちらもリコーダーの運指表が載っている。「教育芸術社」は、音符に階名が書いてあるため、読譜が苦手な児童にも一目で分かるように工夫されている。「教育出版」は、右手左手のポジションが分かりやすくなっているとともに、一つ工夫されていることがある。巻末見開きの運指表を広げたまま、36ページを開けてください。リコーダーの運指で迷ったとき、楽譜は開いたままにして運指表で運指を確かめることができるよう、大変よく工夫がされている。

今回説明した3つの調査項目を含め、すべての調査項目・着眼点について、5名の調査研究員で学年ごとに2者の教科用図書を調査研究した。その結果、ご覧の通り、本市の児童にとって「教育芸術社」がより望ましい教科用図書であることを、調査研究員の見解として報告する。

**【採択検討委員】**

評価の得点はこれでよいか。8点と10点で、二重丸が2点で、白丸が1点と、これまでやってきた。

**【主任研究員】**

12と13である。エクセルで、数式が入っていたため、点数が違っている。訂正いただきたい。

**【教育長】**

教出が12、教芸が13ということか。

**【主任研究員】**

教出が12、教芸が13である。

**【採択検討委員】**

ふるさとを扱った題材ということで、「郡上節」や「高山音頭」、「おばば」が取り上げられていることは大変よく理解できた。岐阜市の子ども達の音楽に関する実態から、教芸を選ぶという視点はあるか。

**【主任研究員】**

岐阜市のこれまでの音楽科教育で培われてきた力というものがある。岐阜市の場合、曲ごとに力をつけるのではなく、曲をいくつかまとめ、その中で、音楽の力をつ

けている。先ほど話をした、系統性・発展性のところである。岐阜市の子どもたちは、曲を勉強してきただけではない。特に高学年になると、明日の予定には、曲名ではなく、「豊かな響きを味わおう」という題材名が書かれている。子どもたちにとって、この曲で学んだことが、次に活かせるということは大きな喜びであるし、確実な力がつくことだと感じている。岐阜市では、その学び方を行ってきた。その学び方に適しているのが教育芸術社である。

**【教育長】**

リコーダーのヘッドピースで遊ぶことは、最近の潮流か。それが一般的か。

**【主任研究員】**

小学校三年生の子が、この楽器を初めて手にした時に、まずはバラバラにすることである。次に行くことは、自分から音に働きかけ、とにかく音を出すことである。教育出版の方は鑑賞から入っているが、子どもたちが、自ら音に働きかけ、頭部管で音を出すことは、子どもたちの興味・関心を高める。さらに、楽器の構造もよく分かり、「音が出るのはこの部分」、「こちらは音の出ない部分」ということも分かる。そのため、この遊びはとても有効な遊びだと我々も思う。

**【教育長】**

子どもは、ピーピーと笛を吹く。音楽の先生に、温かい息を吹きかけるような、優しい音を笛に送ることを指導しなさいと言われたが、それは過去の指導か。

**【主任研究員】**

まずは、ピーピーと鳴らし、やりたい放題やるのが、子どもの興味・関心である。その次に、「もっといい音を出したい。」と思ったときに、「温かい息だね。」と言うことで、子どもたちの中にストンと落ちるのではないか。

**【教育長】**

採決に移ってもよろしいか。それでは、種目音楽の調査研究報告が適切かつ充分なものであることについて、承認いただける方は挙手願う。（全挙手により承認）

**【図画工作：主任研究員】**

平成29年度に告示された、現在の小学校学習指導要領解説（図画工作編）は、改訂の具体的な方向性について、「感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る」「生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図ることが、明確化された。

私たち調査研究委員会小学校図画工作部会では、こうした教科の特質を踏まえ、調査研究を進めてきた。

調査の対象になった教科書は、「開隆堂出版株式会社」と「日本文教出版株式会社」の2者のものである。図画工作科の究極の目標は、「感性を育み、豊かな情操を培う」ことである。図画工作科は、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す教科である。そのため、図画工作科は教科の特質として、「造形的な視点」や「創造性」に重点がおかれることになる。

育成する資質や能力は、「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考える」「創造的な発想や構想をする」「作品などに対する自分の見方や感じ方を深める」という学習過程を通して育てられる。

これらは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関する内容を示している。

図画工作科の調査研究にあたり、全教科共通の5つの調査項目を確認した上で、「開隆堂出版」及び「日本文教出版」の2者の教科書を調査した。

まず、調査項目1「資質・能力の三つの柱（「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養）をバランスよく育成」することについて、着眼点1から開隆堂出版3・4下 P42、43 及び日本文教出版3・4下 P48、49。

開隆堂出版では、学習のめあて「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3つを、3色に分けた3つのキャラクターとリンクさせている。また、特に大切なめあてを赤色、アンダーラインは全ての題材で設定している。

日本文教出版では、学習のめあて「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3つを、3色に分けた3種類のピクトグラムとリンクさせている。また、3つのめあてと5つの評価項目を関連させ、指導と評価の一体化も図っている。

着眼点1（2）から開隆堂出版3・4下 P42、43 及び日本文教出版3・4下 P48、49。

開隆堂出版では、全学年を通した題材数は、129題材である。

版画題材は、どの学年もカラーの題材を取り上げている。4年生では、初めて使用する彫刻刀での線彫りを中心とした「彫り」の学習内容に加え、カラー版画としての「刷り」についても学ぶ要素を展開している。

日本文教出版では、全学年を通した題材数は、128題材である。

版画題材は、様々な種類の版画を系統的に配列している。4年生では、白黒の版画を中心に上げ、彫刻刀を初めて扱う木版画の製作工程に配慮して、彫りの基本の線彫りに加え、白と黒のバランスなど「彫り」の学習に重点をおいた内容になっている。

次に、同じ「版画」題材を扱った高学年のページ、開隆堂出版 5・6下 P42、43

及び日本文教出版 5・6下 P46、47。

開隆堂出版では、スチレンボードを利用することにより、刷り方や版の合わせ方など、版表現の多様化を図っている。

日本文教出版では、「彫り進み版画」や「一版多色版画」等、木版画の多様性を図ったり、同じ版を何度も重ねたり、赤と青の2種類のインクを使った刷り方を取り入れたりして刷りの多様性についても紹介している。さらに、スチレンボードによる版画や作家の版画作品を紹介して、版画の系統性や発展性も考慮されている。

次に、調査項目2「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」について説明する。

最初は、着眼点2（1）について、開隆堂出版3・4下 P40～41及び日本文教出版3・4下 P46～47。

開隆堂出版では、離れて暮らしている祖母の誕生日に合わせて、誕生ケーキをデザインした飛び出すカード製作をしている。また、カードのバリエーションとして、魚が好きな友達へのカードとして、相手意識をもちながら、深海水族館の飛び出すカードを製作している。カードの形状は、紙を立たせる基本形と四角形を中心に行っている。

日本文教出版では、飛び出すカードを渡す対象者を、「給食調理員さん」「自然施設の方」「友達や家族」「先生」など、それぞれの子どもにとって身近で、関わりのある人をイメージしている。その人への感謝やその人との思い出といった、その子が感じた表現内容の広がりが見られる。カードの形状は、基本形を発展させたり装飾を加えたりしている。また、カードの輪郭の形まで変化させているものもある。

次は、着眼点2（2）について、開隆堂出版3・4下 P36～37及び日本文教出版3・4下 P52～53。

開隆堂出版では、タブレット端末は、絵を描いたり写真を撮影したりすること等、補助的に活用することが多くなっている。

日本文教出版では、タブレット端末の機能を生かし、発想や鑑賞を深める題材が多くなっている。また、アプリ（ソフト）を導入し、鑑賞の指導の充実化を図ったり、題材に設定したりしている。

次は、着眼点2（3）について、開隆堂出版1・2下 P20～21及び日本文教出版1・2上 P20～21。

開隆堂出版では、学習活動の場が、主に教室や図工室、体育館等、屋内が多くなっている。

日本文教出版では、学習活動の場が、教室や図工室、体育館等にとどまらず、屋外の施設や季節の多様性など、設定が広がっている。

次に、調査項目3「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」について、開隆堂出版には表記がない。

日本文教出版 5・6下 P59 及び1・2下 P44。

日本文教出版では、岐阜県に深いゆかりのある伝統的産業として「和紙」のコーナーを取り上げ、製作工程を紹介している。また、和紙のよさを生かしてつくられた「水うちわ」「ランプシェード」などは、美濃市だけでなく、岐阜市でも馴染みがあるものである。

また、岐阜県にゆかりのある作家「渡辺泰幸（実の音 1・2下 P44）」や「ぎふメモリアルセンターの、岡本太郎（燃える人 3・4上 P49）」も紹介されている。最後に、調査項目4「印刷・製本等」について、どちらもユニバーサル・デザインフォントを使用し、文字等の見やすさに配慮されている。開隆堂出版 5・6下 P42、43 及び日本文教出版 5・6下 P46、47。

開隆堂出版では、説明やキャプションなどの一部について、背景写真と文字が重なるレイアウトが見られる。

日本文教出版では、文字の背景色を白または無地に統一して、文字と背景の図柄が重ならないように処理することにより、より見やすいような配慮が行われている。調査項目にはないが、マスクの着用について触れておく。

開隆堂出版 3・4下 P42、43 及び日本文教出版 3・4下 P48、49。

開隆堂出版では、全ての学年に共通し登場する子どもはマスクを一切着用していない。

日本文教出版では、マスクを着用している子どもと着けていない子どもが混在している。

こうした調査結果を踏まえ、私たち調査研究委員会小学校図画工作部会では、日本文教出版の教科書が望ましいと考えている。

#### 【教育長】

図画工作部会の調査研究について、何か意見はあるか。

#### 【採択検討委員】

違いがよく分かって、日本文教出版が大変活用しやすいということがよく分かった。コロナ禍の影響により個で活動することが多く、仲間と対話しながらアイデアや技能を交流し、作品がよくなったとかアイデアが深まったとかということが制限されてきたと思うが、対話的な学びで両者違いがあったのか。

#### 【主任研究員】

日本文教出版の方が、タブレットを活用して製作の過程を分かるようにしているとか、その作品をみながらワーキングを行うことなどを示している。

#### 【採択検討委員】

岐阜市ではロイロノートを活用してタブレットを使っていくという点でも、最適だ



ということか。

【主任研究員】

その通り。

【教育長】

種目「図画工作」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただける方は挙手願う。

(全挙手により承認)

【家庭：主任研究員】

これから【小学校家庭】の調査研究結果を報告する。

調査対象となったのは、東京書籍、開隆堂の2者である。資料に示した調査項目、着眼点、調査方法から調査研究を行った。

はじめに、着眼点「1－(1)」、「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成」するための構成・配列について。調査の結果、それぞれに明確な特徴があるので、教科書で該当箇所を示し説明する。

東京書籍は、家庭科の3つの内容の関連を図り、大題材で構成しているものが多いのが特徴で、家庭生活を総合的に捉え、3つのステップで効果的に学習を進め、資質・能力を育成することができるようにしている。

P1、第1題材「私の生活、大発見！」で説明する。この題材は、内容「A 家族・家庭生活」と内容「B 衣食住の生活」との関連を図った題材である。

この題材では、ステップ1で、家庭生活を支える仕事について見つけ、「協力」という見方・考え方から、自分でできることを増やすという課題を設定していく。ステップ2「計画しよう・実践しよう」では、家庭の仕事をするために必要な知識及び技能である、調理用具の使い方、お茶の入れ方等を習得する。さらにステップ3で、家族の一員として続けてできる仕事を広げていき、家族の生活にあわせてよりよい方法を考え実践していく、実践的態度を培っていくという構成になっている。

続いて、開隆堂のp4、p5。

開隆堂は、家庭科の3つの内容を焦点的に扱った小題材の構成となっており、第1題材から第5題材を大きな枠組みとして、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで構成しているのが特徴である。第1題材「毎日の生活を見つめてみよう」で、「協力」の視点から、生活を支える仕事の中で自分ができることを増やしたいという課題をもたせ、第2題材から第4題材で、「ゆでる」を中心とした調理、針と糸を使った手縫いなど、必要となる基礎的・基本的な技能及び知識を習得できるようにしている。さらに、第5題材で再び家庭の仕事に目を向け、学ん

だことを生かして自分にできる家庭の仕事を見つけ、工夫して取り組むという、家庭実践へつなげている。また、この3つのステップは、それぞれの題材においても、学習の流れの基本となっており、課題解決的な学習を進めることで、資質・能力の育成を図っている。

このようにアプローチの仕方は異なっているが、小学校家庭科の目標である「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する」ために、効果的な構成が図られている。

さらに、「着眼点1－(1)」のもう一つの調査項目「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着」からの調査結果を報告する。学習指導要領では、生活の科学的な理解を深め、生活の自立の基礎を培う基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るため、調理や製作における一部の題材を指定している。この題材の扱いや系統性を踏まえた構成・配列について調査をした。

東京書籍のp 22。

第2題材「ゆでる調理でおいしさ発見」では、指定された題材の1つであるじゃがいもを扱ったゆでる調理について学んでいる。このじゃがいもは、第13題材でもゆでる調理で扱っており、「剥く」「ゆでる」ことを繰り返し行うことで知識及び技能の定着を図っている。

続いて、開隆堂のp 14。第2題材「クッキング はじめの一步」でじゃがいもを扱っている。開隆堂においても、6年生の第7題材「こんだてを工夫して」で再度じゃがいもを扱っているが、第2題材では、「皮付きのままゆでて、手で皮をむく」という調理法を示し、第7題材で「皮を剥いてからゆでる」という扱いをしている。調理経験の少ない児童にとって、「じゃがいもの皮をむく」という調理は、非常に難しいため、平易なものから段階的に発展させながら繰り返し位置付けることにより、児童が無理なく習得できるようにしている。これにより、より確実に知識及び技能が定着するようにしている。

続いて、着眼点「2－(1)」 「協動的な学びの充実」について。

第4期岐阜市教育振興計画の基本目標2では、「主体的かつ協動的な学びを通じて未来への礎となる力を育てる教育」を掲げている。この「主体的かつ協動的な学び」という視点から調査した。

東京書籍p 28。第3題材「ひと針に心をこめて」を例に話す。ステップ1・活動1として「話し合おう」が位置付いており、資料を参考に身の回りのものについて話し合う中で、同じ「見方・考え方」から、自分の生活を見つめることができるように促している。この「話し合おう」の活動は、殆どの題材の導入で位置付けられており、

学びの深まりのカギとなる「見方・考え方」や「主体的な学び」を生み出すうえで、効果的な活動となっている。

東京書籍では、「話し合おう」のほかにも、「考えよう」「やってみよう」といった5種類の活動を「課題設定場面」「課題解決場面」等に適切に位置付け、「見方・考え方」をもとに、主体的・協動的な学びの充実を図り、深い学びにつなげている。

次に開隆堂について、説明する。

開隆堂では、協動的な学びを充実させるために、重点とする題材には、複数の「話し合おう」を位置付けているのが特徴である。

p 22。この題材「ソーイング はじめの一步」のステップ2に位置付いている「話し合おう」では、「玉止めや玉結びがどうすればうまくできるのか」といった技能を習得するコツを共有するための話し合いを促している。自分で取り組んだ成果を共有することで、学びの充実を図っていることがわかる。このような工夫は、題材によって軽重がつけられている。

最後に、着眼点「2-(2)」個別最適化を支える「ICTを活用した学習活動の充実」については、2者ともに、右頁の上に二次元コードが掲載されており、児童が自己調整しながら効果的な学習を進めるためのコンテンツが豊富に準備されている。左利きの基礎技能動画もあり、全ての児童が確実に基礎的・基本的な知識及び技能をおさえることができるように配慮されている。

東京書籍のQRコンテンツは、どの題材も導入はデジタル思考ツール、終末はワークシートで構成されている。p 101の上段にあるように、動画の中には「プロに聞く！」というインタビュー動画もあり、資料として掲載されている内容を、実際に部屋を示しながら説明するプロの話を聞くことができる。このような動画資料は、児童が問題解決的な学習を進める際に、効果的に活用することができ、学習の深まりにつながることを期待される。

一方、開隆堂では、どの題材も導入と終末は、ワークシートで統一され、題材の特徴に合わせた動画コンテンツの配分が変えられ、効果的に活用できるように工夫されている。p 107。開隆堂においても「キャリアインタビュー」が掲載されている。学習内容と密接につながる職業や取り組みをしている方のメッセージとなっており、児童の興味・関心を高めることが期待できるが、紙面でのみの扱いになっている。以上のように、着眼点ごとの調査を行い、両者を照らし合わせ、評価をまとめた。その結果、「基礎的・基本的な知識及び技能の着実な定着」という点では、開隆堂がやや効果的であると考えたが、他の項目の「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」「協動的な学びの充実」「ICTを活用した学習活動の充実」といった点では、東京書籍の方がより効果的であると判断し、東京書籍が採択教科書として望ましいとい

う見解になった。

以上で、【小学校家庭科】調査研究結果の報告を終わる。

**【教育長】**

意見、質問を受ける。

**【採択検討委員】**

コロナ禍で、調理実習ができない時期があった。岐阜市の児童の実態をみたとき、例えば、調理実習に関わる技能においてこのような課題がある。そのために東京書籍の教科書で、補完している事例があれば教えていただきたい。

二点目、資料9ページ、評価一覧の4番、印刷・製本等の評価について、(3)上記以外の使用上の便宜の中に、安全指導や防災教育に関わる部分が含まれていると報告があったが、安全指導や防災教育は喫緊の課題である。東京書籍の顕著な部分があれば教えていただきたい。

**【主任研究員】**

調理においては、実習が行われる機会が少なかった。コンテンツを比べたときに、東京書籍の方が1つ1つの調理技能に関わって、ポイントとなる方向から撮影されている。また、ポイントとなるところにテロップが入っている。このように色々な所に配慮があり、技能が確実に身に付くようになっている。

安全指導や防災教育については、教科書9ページ、地震が起こったときということで「いつも確かめよう」という安全指導の中に、調理実習を行っているときに地震が起こったらどのような行動をとればよいかということが記載されており、教科書の最初のページにまとめて確認ができるようになっている。また、その都度“災害のときには”ということで資料が載せられており、その都度の学びの中で防災に関わることについて取り上げられているという点が、東京書籍の優れている部分だと捉えている。

**【教育長】**

その他、いかがか。

**【採択検討委員】**

久しぶりに家庭科の教科書を見て驚いた。高等学校の探求科のカリキュラムをプロデュースするときが一番の基盤となったのが家庭科と芸術。それによると“生活を変える”や“学んで変わるよ 私たち”というのは、探求のにおいがする科目であると感じた。研究協議の中で岐阜市が大切にしている探究的な学びにつながるがあれば教えていただきたい。

**【主任研究員】**

家庭科には課題と実践という箇所がある。これは、これまでに学んだことを生かしながら自分の生活をみつめて問題に感じたことを取り上げ、どのような課題を追究し

ていけば自分たちの生活がよりよくなるだろうという、自分の課題について探求的に学んでいく、そしてその結果を実践交流しながら、また「こんなことができるのではないか。」と協働的な学びにつながる。そのような学びが位置付けられている。それにつながるように、特に東京書籍は「生活全体を見る」というところから入る題材が多い。自分の生活の問題に気付くという部分が児童の弱いところであるが、4つの視点から自分の生活をみつめ、問題に気付くために仲間と同じ視点を持ちながら、自分の課題を明確にしていとすることを大切にしている点が優れた部分である。

#### 【教育長】

承認いただける方は挙手を。(全員挙手により承認)

#### 【保健：主任研究員】

調査研究の対象となった教科書は、東京書籍、大日本図書、学研、光文書院、大修館書店、文教社の6者。はじめに、6者の教科書の概要をお伝えする。資料として提示するのは、各者3・4年生の教科書のはじめにある、「教科書の使い方」と「学習の進め方」に当たるページ。

東京書籍は、1項目4ページ構成になっており、導入部分で課題を適切に自分ごとにできるような工夫がなされている。教科書全体を通して、動画やシミュレーション、ワークシート、思考ツールなどのウェブコンテンツが大変豊富に用意されている。(二次元コード数 93)

大日本図書は、1時間1見開きを基本としたレイアウトで、ページの左側に学習の流れを示すガイドが位置付けられている。ホームページ上にウェブコンテンツが大変豊富に用意されており、巻頭に一覧が設けられているのに加え、対応するページでもマークで示している。(102コンテンツ)

学研は、1時間4ページ構成になっており、導入部分で現代的な課題を取り上げたり、写真やイラストを示したりして、児童が興味や見通しをもって学習ができるように工夫されている。動画やシミュレーション、ワークシートなどのウェブコンテンツが豊富に用意されている。(二次元コード数 42)

光文書院は、1時間1見開きを基本とし「見つける」「知る」「生かす」の3つの要素で教科書が構成されている。各章のはじめには、児童が学習内容を身近に感じられるよう、イラストを使いストーリー形式で表されている。動画やシミュレーション、ワークシートなどのウェブコンテンツが豊富に用意されている。(二次元コード数 39)

大修館書店は、1時間1見開きを基本としたレイアウトで「導入」「課題解決活動」「まとめ」の3ステップで構成されている。大きめのイラストを多用し、視覚的にも

理解しやすいように配慮されている。動画やシミュレーション、ウェブサイトなどのデジタルコンテンツが豊富に用意されている。(二次元コード数 62)

文教社は、1時間1見開きを基本としたレイアウトで、学習のめあてを最初に位置付け、学習の流れを「本時のメニュー」として表現している。各ステップを「ミッション」と表現しており、ミッション1では、生活の中の身近な出来事から課題設定するなど、どの児童も課題意識をもちやすいようにしている。動画を中心にデジタル資料が用意されている。(二次元コード数 27)

このような6者の教科書を、4項目10の着眼点で比較した結果、東京書籍と学研の2者が優れているため、これ以降は東京書籍と学研の2社を中心に説明する。

まず、項目1「学習指導要領 資質能力の三つの柱をバランスよく育成する」にかかわって説明する。

着眼点【1-(2)】他教科等の学びや他学年での学びとの関連及び系統性、発展性について。4年生「身体の発育・発達」の章で、他教科や他学年での学びとの関連及び系統性について説明する。

まず東京書籍。章の初めに「つなげよう」として、4教科、3学年、10項目が位置付けられている。

次に学研。章のはじめに「つなぐ」として5教科、4学年、12項目が位置付けられている。

さらに、章の中を見ていくと、東京書籍は17ページの中で「つなげよう」が8回位置づけられ、そのうち5項目が新しいもの。

学研は20ページの中で「つなぐ」が4回位置付けられているが、新しく紹介されているものはない。

また、自分の身長伸びを調べグラフに表す活動では、東京書籍は実際に計算をしたり棒グラフに表したりする活動があり、3年生算数「小数の計算」や「ぼうグラフ」の学習との関連が図られている。

学研は、タブレットをつかってグラフを作成し、実際にグラフを作る作業は無い。4学年分の身長を入力すると1年間の伸びを自動的に計算し、グラフ作成ボタンを押すと1年間の伸びを表した棒グラフが作成される。時間をかけず身長の伸び方の個人の特徴を見ていくには便利な機能。

算数科においても「算数で学んだことを生活や学習に活用する態度を養う」ことが大切にされているので、東京書籍が他教科や他学年での学びとの関連がより充実していると考えられる。

なお、東京書籍にも学研同様のタブレットでグラフが作成できるアプリが準備されている。

次に、項目2 「第4期岐阜市教育振興基本計画「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」」にかかわって説明する。

着眼点【2-(1)】個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について、5年生「心の健康」の章で説明する。2者ともに優れているが、充実の一例を紹介する。章の終盤に「気持ちの伝え方」について取り上げている。

まず東京書籍。場面設定は1つだが、「自分だけが我慢する言い方」「相手をこうげきするような言い方」「自分と相手の両方を考える言い方」とタイトルをつけていることで、これまでの自分の行動を具体的に振り返ることができたり、実際に演習を行う時のねらいを意識しやすくなったりする。また、付属のオリジナル動画では、主人公の「心の声」が表現されていたり、声のトーンでも気持ちを表現したりしているので、文字だけではその違いを掴みづらい児童の学習に有効であると考ええる。

次に学研。場面設定は、友達とのやり取りと家族とのやり取りの2場面があり、より実生活に生かすことができる。A～Cの選択肢形式となり、その伝え方を選ぶことで相手や自分がどのように感じるかを理解することは、その後の学習活動（話し合いに）よってはっきりさせていく。

いろいろな特性をもつ児童が、自分の考えや気持ちを伝えるスキルの向上を考えた場合、東京書籍の内容は優れていると考えるし、話し合いにより相手や自分がどのように感じるかの理解を深めていく協働的な学びは学研の工夫されているところである。

続いて着眼点【2-(2)】ICTを活用した学習活動の充実について、5年生「心の健康」の章で説明する。

まず東京書籍。コンテンツ数3・4年生32個、5・6年生66個。合計98個。種別は、動画38個、ワークシート31個、アニメーション12個、シミュレーション6個、ウェブページ6個、図鑑3個、思考ツール2個。

次に学研。コンテンツ数3・4年生15個、5・6年生26個。合計41個。種別は、ワークシート23個、シミュレーション7個、動画5個、ウェブページ5個、図鑑1個。

両者を比較すると、東京書籍のコンテンツ数が倍以上あり、動画やアニメーションが充実していることがわかる。

5年生けがの防止の章では、けがの手当について学習する。ここでの動画を比較すると、東京書籍は、教科書で扱っている、すり傷・切り傷、鼻血、打撲・つき指・捻挫、軽いやけどの4つの手当について、一連の流れがすべて動画で準備されている。学研は、擦り傷の水で洗い流す部分の動画が準備されている。このように、ICTを活用して授業を行う場合、コンテンツの量、内容とも東京書籍が充実している。

次は、項目3 「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」について。着眼

点【3-(1)】ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進について、3年生「けんこうな生活」の章で説明する。

まず東京書籍。児童の健康を守る活動をしている人として、養護教諭、保健委員会、栄養教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが挙げられている。

次に学研。児童の健康を守る活動をしている人として、保健室の先生、栄養の先生、学校医さん、保健委員会の人たち、学校薬剤師さん、スクールカウンセラーさんが挙げられている。

東京書籍では、スクールソーシャルワーカーが取り上げられている。活動内容として直接児童に関わることは少ないと思われるが、岐阜市が誇る岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」の存在を考えると、スクールソーシャルワーカーは重要な存在と考える。

次に、活動内容の表記について。保健委員会について、東京書籍は「健康によい生活などについて、保健室の先生と一緒に考え、みなさんにわかりやすく伝える。」学研は「ポスターなどで、病気の予防や、けがの防止をよびかけてくれている。」と表記している。学校薬剤師について、東京書籍は「学校の水道やプールの水、教室の空気や明るさなどが、健康に悪くないかの検査をしている。」学研は、「学校の水や空気が清潔かどうかなどを調べている。」と表記してある。東京書籍の方がどちらも、活動内容がより実態に即しており、かつ具体的に示されている。以上2点より、東京書籍がより優れていると考えた。

最後に、項目4 「印刷・製本等」にかかわって。

まず東京書籍。ページ数3・4年生45ページ、5・6年生77ページ。厚さは3・4年生3ミリ、5・6年生4.5ミリ、重量は、3・4年生151グラム、5・6年生237グラム。

次に学研。ページ数3・4年生49ページ、5・6年生89ページ。厚さは3・4年生3ミリ、5・6年生5ミリ、重量は、3・4年生151グラム、5・6年生252グラム。

2者とも、1項目4ページを基本としているので、ページ数、厚み、重量ともほぼ同じ数値になっている。1項目4ページなので、学習活動として教科書への書き込みも多くある。教科書への書き込みという視点で2者を見てみると、独自開発された学研の用紙がより光沢が抑えられていて、また鉛筆の芯がよりすべりにくく、書き込みやすいと感じた。

以上、評価の高かった上位2者の教科書を検討した結果、小学校体育科調査研究会として「東京書籍」を使用することを提案する。



**【教育長】**

質問、意見を聞く。質問意見はないか。

**【採択検討委員】**

東京書籍の方を選ばれたわけだが、その「売り」として強いのはICTを活用した学習活動の充実というところか。動画やワークシートは学研の方もあるということだが、動画がたくさん入っているというところに強みを感じていらっしゃるということか。

**【主任研究員】**

今の動画等のコンテンツの充実について、加えて説明する。

四年生の体の中で起きる変化というページで、性教育に関わって内容的にも大変重要なところのだが、東書は女子男子合わせて2分間の動画が作成されている。学研の方は、男子の性については十数秒の説明がある。授業を行う場合、子ども達にやはり必要最低限正しい知識を伝えるということにおいて、若い先生であったり男性女性ということもあたりるので、この動画を活用することでそのあたりのばらつきが無くなるということ。ただコンテンツの数だけではなく、内容的にも東書の方が充実しているというように、我々は判断した。

**【採択検討委員】**

学研の方から東書に変更になるということによろしいか。そうすると、その岐阜市に合った、という点では一人一台タブレットが貸与されているので、今のICTを活用しているというところが充実しているということが岐阜市に合っているということで良いのではないかなと思う。

**【主任研究員】**

すみません。言い忘れたが、東書の動画は字幕を入れることも自分で選択することができる。先ほどもお話をしたが、児童がいろんな特性を持っているので、何回も繰り返し見たりとか字幕を入れて見たりとか、そういったことを自宅でもできるという点で、この動画の充実を挙げさせていただく。

**【教育長】**

その他いか。

はい、じゃあ質問意見も無いようなので採決をする。

種目保健の調査研究報告が、適切かつ十分なものであることについて承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

**【英語：主任研究員】**

教科「外国語」、種目「英語」の調査研究結果を報告する。

調査研究資料①を参照。私たち外国語科 調査研究委員会では、学習指導要領に示された小学校外国語科の目標である「外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する」ことを念頭に、私たち岐阜市の大切な児童にとって、どの教科書が最もふさわしいか、御覧の調査項目、着眼点、調査方法を設定し、調査研究を進めてきた。

どの教科書も基本的な構成として、単元ごとに見開き2ページの絵や写真、映像等を使った導入から始まり、基本表現を身に付けるために、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を複数回行った後、単元末の言語活動が設定されている。

はじめに、それぞれの教科書の特徴、よさについて話す。調査研究資料④を参照。

上から順に、東京書籍は、自分の伝えたいことを表現するために、見通しをもちスモールステップで学習できる構成となっており、伝え合う力が身に付くよう、児童の立場に立った様々な配慮が感じられる。

続いて開隆堂は、学習の振り返りや、自己評価などが充実しており、自分の学びや成長を確かめやすい教科書と言える。

三省堂は、確かな力を身に付けられるように、計画的に指導内容と構成が工夫されている。

教育出版は、ICTを効果的に活用することで、主体的な学びをサポートできるように工夫されている。

光村図書は、何ができるようになり、どう学んでいくかが分かりやすく、意欲的に取り組めるような工夫がされている。

最後啓林館は、英語を使うための知識及び技能を身に付け、考える力を育めるように工夫がみられる。

このように、各者のよさの概略をまとめたが、4項目、10の着眼点に基づく評価結果について、資料⑤を参照。

一覧にあるように、調査の結果、総合的に最も高い評価を得たのは「東京書籍」となった。

先に述べた通り、すべての教科書において基本表現を身に付けるための活動の後、単元末でその表現を使ったまとめの言語活動が設定されている。この単元のまとめの言語活動が、児童にとって魅力的で、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができるものかどうか教科書選定の重要なポイントとなる。

これより、単元のまとめのページにおける各者の言語活動の主な特徴について説明する。共通して、6年生の「将来の夢」に関する単元の終末のページを取り上げる。

まず、東京書籍。6年生86、87ページを参照。始めに、ステップ1で、将来したいことについての対話を聞くこと、読むことを通して、活動のイメージをもてるよ

うにしている。ステップ2で、話す内容を整理しながら、将来したいことを書き、ペアで伝え合う言語活動をする。その後、87ページでは、カードを使って、たくさんの仲間と話すこと[やり取り]を行う構成になっている。

次に、開隆堂。92、93ページを参照。始めに、二人の将来の夢の英文を読んで分かったことを書き、発表のイメージをもたせる。次に、話す内容を整理した後に、ペアで将来の夢について伝え合う言語活動をする。その後、グループや学級で話すこと(発表)を行い、最後に発表した内容をもう一度整理して書く、という構成になっている。

続いて三省堂。90、91ページを参照。始めに、将来の夢について書かれた英文を聞いたり読んだりする。さらに2組の将来の夢についての対話を聞くことで、話すこと(やり取り)のイメージをもたせる。その後、将来つきたい職業を伝え合う活動と振り返りが設定されている。

続いて教育出版。84、85ページを参照。始めに、将来の夢について音声を聞いたり、英文を読んだりして発表のイメージをもたせる。その後、巻末にある付属のワークシートに将来の夢を書いた後、グループや学級で話すこと[発表]を行う。最後に、それぞれが書いた風船シートを貼り付けて、学級全体で「夢の気球」を作成するようになっている。

続いて光村図書。80、81ページを参照。始めに、将来の夢について書かれた英文を読んだ後、3人の中学生が、それぞれ自分たちの学校生活の様子を紹介する動画を見て、中学校生活のイメージを膨らませる。その後、将来の夢について英文で書き、書いたことについて、さらにくわしく発表する活動と振り返りが設定されている。

最後に啓林館。88、89ページを参照。始めに動画を見て、将来の夢について発表するイメージをもてるようにする。その後、さらに外国の児童が話す動画を見て、分かったことを聞き取る活動をする。そして、自分の将来の夢について理由を加えて発表し、最後に発表したことを書く活動を設定している。振り返り欄は次のページにある。

このように、同じ「将来の夢」をテーマにした箇所を比較すると、設定された言語活動や構成の仕方に特色があることが分かる。

もう一度、東京書籍の86、87ページを参照。86ページの冒頭には、「お互いの夢に向かって応援するために、将来したいこと伝え合おう」と、この授業の学習課題が明記されている。学習指導要領には、児童が、既習の知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動を充実させる重要なポイントとして、コミュニケーションをする目的や場面、状況を明確に設定するよう示されている。小学校卒業を控え、これまで共に過ごした学級の仲間に対して、将来したいことをただ話

して終わりではなく、お互いの夢を知り、励まし合えるようにと、すなわち、「何のために伝え合うのか」といったコミュニケーションの目的がはっきりと示されている。こういったところも、学習指導要領の方向性をより強く意識した構成になっていると言える。

また、表現例や単語例、参照するためのページも示されており、児童が必要に応じて参考にすることができるようになっている。巻末には、将来したいことを書き込むためのカードが、そのまま切り取って使えるように付いている。

87ページには、主体的に学習に取り組む態度を育むため、児童が自らの学習を調整できるように、活動前に会話で気を付けたいことを書いたり、活動後の振り返りを書いたりするスペース、そして会話で話したことを書くスペースも設けられている。右下には、この時間の学習の振り返りができるようになっている。

このように、東京書籍の教科書は、他者と比較し、児童にとって言語活動が充実したものになるよう、学習課題を解決するための支援など、よりきめ細やかな配慮がなされていることが分かる。

次に、調査項目2 着眼点(3)「多様な学びを支援する教育の充実」に関わり、「外国の習慣や文化の取り扱い」について、東京書籍と、2番目に総合評価の高かった2者、開隆堂と三省堂を比較して説明する。

まず、東京書籍。6年生 44、45ページを参照。東京書籍の特徴の一つとして、各単元の最後に「Over the Horizon」というページが必ず位置付けられている。単元で学習するテーマや英語表現などに関連し、外国についての映像を見たり、日本語と英語を比較したりして、言語の背景にある文化を理解し、英語の学習に主体的に学習に取り組む態度を育成することをねらいとして、児童の気付きを促し、考える活動が設定されている。この単元では、世界の行きたい国について紹介し合う言語活動を行うが、単元の最後にこのように「世界遺産」について、活動が設定されている。

次に、開隆堂。6年生 84、85ページを参照。開隆堂では、6年生では年間に3回、関係する単元の次に「Around the World」というページが位置付けられており、外国の習慣や文化について既習の語句や表現を用いて紹介がある。

次に、三省堂。6年生 20、21ページを参照。三省堂では、世界遺産のページはないが、同様に、年間2、3回ほど、「Hello, World!」という、外国についての紹介ページが位置付けられている。

以上のように、東京書籍は、外国の習慣や文化の取り扱いについても、他者と比較し、紹介で終わるのではなく、より深い学びを目指しており、1年生から英語を教科として学んでいる岐阜市の児童にとって、ふさわしい内容・構成になっていると考えられる。

最後に、調査項目 2 着眼点 (2) 「ICT を活用した学習活動の充実」に関わり、学習者用デジタル教科書の特徴について説明する。令和 6 年度から、英語のみ、全ての小中学校等を対象に、小学校 5 年生から中学校 3 年生に、紙の教科書に加えて学習者用デジタル教科書が提供されることになっている。各者ともに、音声・動画再生機能については、児童が聞きたい英語や日本語を選択したり、音声の速度調整を行ったりするなどして、個別最適な学びを行うことができる。

書き込み機能については、自分の考えや英文等を書き込んだり、マーカーやスタンプ等を付けたりすることができる。また、書き込んだ内容を画像として保存し、仲間と共有することで、協働的な学びをすることができる。

特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮については、色覚の多様性への対応として、配色や文字の大きさを変更したり、どの児童にも読みやすいユニバーサルデザインのフォントを使用したりしている。

そんな中でも、東京書籍は、言語活動の際に役立つ会話練習動画や、探したい語彙を簡単に探せる Digital Dictionary、日本や世界の場所、ものを探して書き写しや音声の確認ができる Digital Map 等で、個の実態に応じた学習の進め方を選択することができるようにされており、他者と比べて、より多くの様々なコンテンツが準備され、学習のサポートが充実していると言える。

以上、東京書籍が他者と比べて良いと考えられる理由についてポイントを絞り説明してきたが、総合的に判断し、岐阜市の子どもたちにとって、東京書籍の教科書が最も望ましいということ、私たち調査研究委員会の見解として報告する。

#### 【教育長】

種目「英語」についての調査研究報告について質問・意見を受ける。質問・意見は、ないか。

#### 【採択検討委員】

2 点お願いしたい。1 点目は、岐阜市の英語の授業の実態に応じてどうかという視点。先日も岐阜市の教育教科研究会でも話題になったが、授業の最初に今日は何を行うかという課題を提示するが、その課題の記述がいわゆる活動で終わっている、「自己紹介しよう」など。今、説明があったように目的とか場面とか状況に応じて課題設定ができるので、東京書籍がふさわしいと説明があった。いわゆる岐阜市の英語の授業の実態を考えたときに、学習課題についてもクリアできる内容になっているかどうかで東京書籍についてコメントがほしい。2 点目は、別冊がそれぞれの教科書会社から出されている。例えば単語とか役に立つ表現についての別冊が中学校になってからも使えるよということが一つの売りになっているが、その別冊についても東京書籍の方が岐阜市の子どもたちにとってふさわしいのか。その 2 点について説明願う。

### 【主任研究員】

まず、1点目の岐阜市の英語の授業の実態に応じているかという点において、授業の課題についてお話をいただいた。まさに、そこが私共も岐阜市の課題だと考えている。どうしても課題が「～しよう」という行動目標のような課題になりがちである。ところが東京書籍は、6者の中で最も強く意識して、「何のために英語の活動を行うか」、「お互いに応援し合うために」友達の話す夢の内容を聞き取らなければいけない。或いはしゃべる側も、一緒に頑張っている仲間に対して、自分の思いを応援してもらおうと思ったら、自分自身をさらけ出そうとして、子どもたちは思考する。表現を考えて、どれを使おうというふうにして話したり、聞く側も意識して聞いたりするような授業になっていく。東書はその部分を意識しており、最もすぐれているということがまず1点目である。

2点目の別冊について。東書の別冊については、二つ特筆すべき点がある。一つ目は、先ほど中学校なっても使えるという話があったが、自分の調べた単語を書くスペースがある。本当に自分が伝えたいことを表現したい。そうすると、どうしてもこの辞書に置けないような、難しい言葉もある。それほど言いたい。それを書き込むようなスペースが設けられている。それから、小学校で勉強する単語は学習用で600～700と定められており、大体どの者も700前後を位置付けている。ただ東書は、紙面上700だが、このデジタル辞書の中に、プラス300語の記載がある。そういった面でも、東書の別冊というのは、中学校になってからも小学校で学んだ中で、本当に自分が伝えたいと考えた内容を持っていけるという意味でもすぐれていると言える。

### 【教育長】

よろしいか。はい。その他あるか。

### 【採択検討委員】

とてもわかりやすくお話いただいたので、最近の小学校の教科書はこういうふうになっていることが理解できた。

英語の教科書は私も関わったことがあるので、非常に個性というかその編集者というか執筆者の言語指導観が色濃く出る。いろんな単元構成とかにも色濃く出るということのを思いながら聞かせてもらった。

一時期中学校でも教科書が入ってきた時に、言語の習得・習熟を視野に入れた学習活動が整然と構成された。ある意味教科書が、テキストだけれどもワーク化して、それをやっていけば大丈夫といったガイドラインとなり、それがメリットでありデメリットでもあるというようなことが言われていた。それが小学校版になるとこういう形になったのかと思った。

例えば、6年生のニューホライズンズの4ページ、5ページを見て思った。その次

の6ページを開けてもスターティングアップがあって、常に何か小刻みな活動が継続しているように感じる。次から次へとゲームを使う場面が設定されているので、結果的に言語活動やっているように見えるが、それを指導者がつなげていかないと、コミュニケーション能力までには高まって行かない教科書だと感じた。非常に英語言語というか、言語観が強いと感じる。

クラウンを見ると6年生の4ページ5ページには、いわゆる言語を習得するというか、習熟を図りながら習得するプロセスが、欲張らずに、でも確実にステップを踏んで、活動の質を考えながら展開している。例えば、ホップステップジャンプっていうこの三つの分け方とか、最初のPOPという描くところなんか見ると、すごくいいなと思う。常に英語の時間に英語を使わなければならないという恐怖感に追われながら、できないか落ちこぼれていくのではなく、ホップというところで、非常にゆったりと時間をもちながら、これからの活動について日本語も含めてイメージーションを膨らませる活動が位置付いている。あとユニットワンツースリーとの繋がりの中で、活動の中心に、英語を使いながらコミュニケーションスキルを身につけさせていくという考えがよく表れている教科書である。そういう言語使用場面がイメージされたコミュニケーション活動があるのは、クラウンだと思った。

サンシャインを見ると、今ひとつそういうコンセプトみたいなものが明確になった内容を感じる。

個人としては、英語は1時間2時間のものではなくて、スパイラルによる繰り返しの中で、じわりじわり身に付いていく科目だとすると、ホライズンのこのいわゆる小刻みな活動を設定するもので、本当に中学校行ってコミュニケーション能力が育つか、或いはクラウンのように、もっとこう長い目で見ながら丁寧に積み上げていく活動の方が、英語について本質的に力伸びるのではないかというような議論はなされたか教えていただきたい。

#### 【主任研究員】

今、お話いただいた通り、クラウンの作りはホップステップジャンプで、最後のジャンプのところで、表現するという、いわゆる大单元というところが非常に特徴的な作りになっていると考えている。そのよさももちろんあるが、東京書籍でも、実際に4ページ、5ページをご覧になっていただくと、ユニット1から2、3の辺りに、そこまでに学んだ表現を使ってチェック用ステップ3という、これまでに学習してきたことを生かして取り組む構成になっている。クラウンほどではないが、東京書籍もそういったところは意識しているにとらえた。

また、東京書籍の特徴だとスモールステップでつないでいくようになっており、英語が専門ではない先生が指導している実態があり、専門でない先生でも、小刻みな活

動により指導者の差が出にくいと考えている。

【教育長】

よろしいか。その他あればお願いします。

それでは採決をする。

種目英語の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。(全員挙手により承認)

【道徳：主任研究員】

これより、「特別の教科 道徳」に関する調査研究結果について報告する。

岐阜市の「道徳教育」の指導では、「自己を見つめ、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成」が求められている。

岐阜市に勤務する者として2019年7月3日は心に大切に刻んでいくべき出来事である。また、令和4年全国学力学習状況調査の結果から「考え、議論する道徳」の重要性を感じている。

今回の調査研究は、こうしたポイントを着眼点に位置付けるとともに「岐阜市教育大綱」、「第4期岐阜市教育振興基本計画」また、県教育委員会の調査研究資料等を参考に、画面のような4つの調査項目、10の着眼点を設け、「児童にとって充実した道徳科となる教科書としてどうか」「先生方にとって道徳科の授業改善を図る教科書としてどうか」について調査研究した。

「特別の教科 道徳」の教科用図書については、見本本として、6者（東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研）から送付があったので、最初に、各者の特色について

- (1) いじめ問題、情報モラルをはじめとする、現代的な課題への体系的な指導
- (2) 「考え、議論する道徳」の推進

の2点から説明する。「小学校教科用図書の採択に関する資料「特別の教科 道徳」と正面の図をご覧ください。

最初に、「東京書籍」。「東京書籍」は、現代的な課題については、すべての学年で5つのユニット（安心・安全、いじめ、情報モラル、いのち、自分）を構成して扱っている。特にいじめについては、いじめの場面を直接的に扱う教材と、関係する価値から間接的に扱う教材、コラム「つながる・広がる」を組み合わせ、多面的・多角的にいじめの防止について考えられるように工夫してある。

また、「考え、議論することができる」よう、様々な工夫がされている。これは6年生124ページの教材「手品師」。教材の冒頭は情報量を抑え、シンプルに構成するこ



とで、児童が先入観をもたずに自己と向き合うようにしている。

左の図は、1年生の教材「かぼちゃの つる」であり、かぼちゃの表情を見ることでかぼちゃの気持ちを想像することができる。このように挿絵や教材のレイアウトを工夫し、子ども達が場面状況を考えやすいように工夫されている。

次に、「教育出版」。「教育出版」は、現代的な課題である「いじめ」「情報モラル」については、全学年で重点テーマとして位置付け、「教材とコラム」の構成でユニット化をして指導できるようにしている。また、多種多様な教材がある。左は、5年生80ページの教材「ルールを守る」。児童にとって身近な場面を具体的に演じてみることで自分事として考えることができるようにしている。この他、イラストから学ぶ教材やマンガ形式の教材などもある。学習の情報化に対応した指導として「まなびリンク（二次元コード）」の数が345個ある。この図は、6年生88ページの教材「礼儀作法と茶道」。これが「まなびリンク」である。巻頭は教材の解説、巻末は関連図書の紹介、関連する外部リンクになっている。

つづいて、「光村図書」。「光村図書」は、現代的な問題については、どの学年も多様な内容項目から「いじめ問題」に結びつく教材とコラムを組み合わせたユニットが設定され、「いじめ」をしない、させない、見過ごさない力が系統的に育成されるように工夫されている。1年生14ページの教材「よいこととわるいこと」では、絵を使って考えるように工夫している。また、第2学年以上の第一教材に「道徳が始まるよ」を位置付け、道徳科では何を学ぶ教科なのかが理解できるよう、児童にも分かる言葉で内容項目を示している。さらに、多面的・多角的な見方で考えを深めていくために、「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」や「心を通わそう」「考える」準備たいそう」など、流れを教科書の中に組み込み楽しみながら対話の力を育む工夫をしている。

つづいて、「日本文教出版」。「日本文教出版」は、「絶対にいじめをしない、させない、見逃さない」ために、もくじのように「人との関わり」を年3回設定し、間接的に扱った教材、直接的に扱った教材、いじめ防止コラムを位置付けている。また、「ぐっと深める」には、教材末にある発問をさらに具体化し、思考を深められるよう工夫されている。

つづいて、「光文書院」。「光文書院」は、いじめ、命を「重点主題」とし、年間3回、「いじめを生まない心」「命をかがやかせる」「学年独自主題」という構成で、複数時間で扱うことで多面的・多角的に考えるように工夫している。

また、現代的な課題においては「へこんでも立ち直る力」を取り上げたりするなど、主題構成の工夫がされている。また、各学年、35時間分の教材に加え、5つの読み物付録があり、児童の実態に合わせ、教材の差し替えができるように工夫されている。

さいごに、「学研」。「学研」は、最重要テーマを「いのち」とし、どの学年にも「命の尊さ」の内容項目を複数位置付け、「いのちのユニット」を組んで、多面的・多角的に考えることができるようにしている。また、「いじめ防止」については、教材に独自のマークを表示していじめへの問題意識をもたせると共に、様々な内容項目の教材をもとに、生命の尊さや人権を重んじ、多様性を受け入れながら他者と共によりよく生きようとする力がはぐくめるよう工夫されている。

教材については、従来の読み物教材だけでなく新感覚型の教材（これは、4年生101ページの教材「友だちが泣いている」）周りの子の表情をシルエットからイメージさせるなど、多様な学びを支援できるように工夫されている。

以上のように各者の教科用図書を調査研究した結果は、17ページのようになった。ご覧のように調査の結果、高い評価を得たのは、「東京書籍」と「日本文教出版」であった。

続いて着眼点にそって、この2者についてどちらが岐阜市の児童、教師にとって最もふさわしいかについて、さらなる精査を行った。

はじめに、1-（1）「特別な教科道徳」の目標である「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲」（道徳性）の育成について説明する。

東京書籍は、シンプルな導入、価値に迫りやすい挿絵など、教材の世界に子どもたちをスムーズに招き入れ学習できるよう工夫されている。1年生の教材36ページ「はしのうえのおおかみ」では、子どもたちは文字と挿絵を見ながらお話を聞く。「かんがえよう」で「くまの後ろ姿を見送っていたおおかみは、どんなことを考えているか。」と教師が尋ねるとき、絵がほしい。そのとき、36ページのような絵があると子どもたちはおおかみの気持ちを考えやすくなる。

一方、日本文教出版は導入に入り込むための発問例を示し、教材の世界に子どもたちをスムーズに招き入れ学習できるよう工夫されている。1年生の教材72ページ「はしのうえのおおかみ」の挿絵は、親しみやすくやさしい感じの絵となっており、子どもたちがお話を想像しやすい絵になっている。「かんがえてみよう」の「前よりずっといい気持ちになったおおかみは、どんなことを考えていたのかな。」と教師が尋ねるときの挿絵はこの絵。さらに、思考が深まり、学びをより確かにするために別冊「道徳ノート」が用意されており、書く活動を通して児童の道徳性の成長の様子や学習の状況を把握できるようになっている。

このような意図はわかるが、小学校1年生の1学期に文字を書く活動は現実的ではなく、実際には低学年には使いにくいと考えている。また、現在は各学校で独自の工夫された道徳ノートを作成しており、このようなノートは岐阜市においては必要ないと考える。

次に1－(2) 児童の発達段階に応じた内容項目の位置付け、内容項目の重点化については、先ほど申し上げた通り、「東京書籍」、「日本文教出版」どちらも学習指導要領の内容項目が過不足なくおさえられているとともに、いじめや情報モラル、生命尊重についても各学年で複数回扱っている。

続いて1－(3) 道徳的価値の理解を深めるために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について説明する。

「東京書籍」は、どの学年も最初に「道徳の学習を始めよう」のページを位置付けている。各教材には、最後に「考えよう」を位置付け、さらに「つながる 広がる」で学習内容を自分のこととして捉え学習できるよう工夫されている。

3年生の教材では、目次の「つながる 広がる」マークのところにある。全部で13個。例えば14ページでは、「さいこうにうれしいおはよう！」をやってみて、気付いたり、かんじたりしたことをグループで交流し、道徳的実践につなげられるよう工夫されている。

日本文教出版も、どの学年も最初に「道徳の学び方」のページを位置付けている。各教材には、最後に「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」を位置付け、さらに「ぐっと深める」で学習内容を自分のこととして捉え学習できるよう工夫されている。3年生の教材では、目次のこの「グー」マークのところにある。全部で5個。例えば54ページなら「ふろしきのよさを知るために、いろいろな物をつつんでみよう。」と自分でやってみて、主人公と同じ体験する活動を行うことで、児童が主人公と同じ視点から考えることができるように工夫されている。

最後に2－(2) ICTを活用した学習活動の充実について説明する。

「東京書籍」は、すべての教材に二次元コードコンテンツがある。こちらは5年生84ページ「一ふみ十年」。自然愛護の教材で、本文の前の1ページ目に写真からスタートしている。「まずは感じる」そんなことを大切にしている。この図の手前に花（チングルマ）があることを覚えておいてください。二次元コードコンテンツを見ると、「朗読」「スライドショー」「デジタルノート」がある。また、教材によっては「つながる・広がる」に動画があり、考えを広げられるようになっている。教材に関連した画像や動画などを閲覧することにより、児童が興味・関心を高めながら学習をすすめるように配慮されている。

日本文教出版、5年生36ページ「一ふみ十年」を見てみる。美しい自然を感じることからスタートしている。同じように2ページをつかった写真だが、先ほどとの違いは、キーワードの花が写っていないこと。東京書籍と同じようにすべての教材に「教科書二次元コードコンテンツ」が用意されており、見ると「説明動画」、「朗読」、「道具ツール（心情メーター、シンキングツール、ワークシート）」がある。

以上のような総合的な調査結果に基づき、私たち調査研究委員会として「東京書籍」の「新しい道徳」が、岐阜市の小学生、先生方に一番ふさわしい教科書であるという結論に至った。以上で「特別の教科 道徳」に関する調査研究結果の報告を終わる。

**【教育長】**

では、質疑応答。

**【採択検討委員】**

17 ページの表を見せていただくと、岐阜市の児童実態に適した教科用図書というところで、東京書籍が○で、日本文教出版も○になっているが、実は日野小学校の校区に、災害救助犬「じゃがいも」がいて、世話をしている上村さんや災害救助犬も学校に何回も来ており、岐阜市の教材だと考えると日文は◎ではないか。もう一つ、杉浦千畝さんの内容も日文には位置付けており、これが◎でなく、○でよいかと考える。ただそれが◎になると、東京書籍と日文が同点になる。だからその辺り、研究調査する中で、話題にならなかったのか。

**【主任研究員】**

災害救助犬の内容がある教科書会社はどこか。

**【採択検討委員】**

日文。本人にお会いした時「岐阜市の道徳の教科書として、災害救助犬の内容を何で使ってもらえないのだろう」と話されていた。この話題で、新聞に掲載されたことがある。話題にでなかったか。

**【教育長】**

日文の何年生か。

**【採択検討委員】**

6年生。

**【教育長】**

何ページか分かるか。

**【採択検討委員】**

P78 と P110。

**【主任研究委員】**

上村さんの話だが、岐阜県ってこと、岐阜市ってことを調査研究の段階では分かっていなかった。ただ、日文さんと、東京書籍の違いの話在先ほどしたと思うが、仮に◎になったとしても、日文もすごくいい教科書だが、一番ネックになったのは道徳ノートである。調査研究のときに一番話題となったのは「ノートは必ず付いているのか」ということ。日文だけがノートがついている。付いてくるということは、必ず使わなければいけないということになり、使っていく上で、さっきの一年生、特に低学年で

は非常に使いにくいということが出た意見である。例えばノートを使わずに、家に持ち帰った際、なぜ学校でノートを使わせないのか、無償給与とは言いながら、税金で賄われているわけだから使わないということとはできない。しかし、低学年では使いにくいことは間違いないという意見だった。

**【教育長】**

この「じゃがいも」の資料については、3番の「岐阜市に生まれた子どもに適した教科用図書」としては良いのではないかという意見だが、その他のことで、東書の方がよいという考えの方、委員の皆さんどうか。

**【採択検討委員】**

ノートは、絶対にやっぱりついてくるのか。断ることは、できないのか。

**【教育長】**

道徳ノートの右上に、検定済み教科書となっているので、多分これもセットで教科書ということだと考えられる。調査研究委員の方からの意見としてはノートも一緒についてくるという形だと使いこなすことが大変で、子どもたちがノートを書くことに終始してしまう可能性もあるので、難しいということだが。

**【採択検討委員】**

東京書籍が、適しているということについてよく分かった。さっきの道徳ノートについて、私も使いにくいと思う。35時間以上の内容があるし、様式が決まっているので、先生にとっては使いにくいものだとは思った。もう一つ、さきほど、手品師の1枚目のところを見ると、6年生「誠実とは」と書いてある。岐阜市の子どもたちに合っているかということ考えると、東京書籍では手品師が124ページにあり、その導入は、大変シンプルな導入で、先入観を持ちにくいというふうにご説明された。一方、日文の手品師を見てみると、92ページ。導入のところでは「誠実な心」と書いてあり、最初に、手品師というお話を通して、「誠実ということについてみんなで考えよう」という価値への方向付けがある。そのあとに、手品と男の子が出てくると、その話の概要が書いてあって、最後にもう1回手品師に戻って、今日は、手品師の気持ちで考えていくよと示す。自分が道徳やってきたときに、そういった価値の方向づけで子どもたちの身近な生活に戻して、それから、「こんな話だよ、こんな主人公、登場人物が出てくるよ。こんな話の中で、今日はこの手品師の思いを考えていこう」と示すことで、子どもたちは、話の様子が掴みやすくて、主人公に自我関与しやすく、最終的に考え、議論するということになり、より時間を有効に使えるのではないかと思う。ぐっと考えを深めるということについては、日文の方が何か丁寧に書いてあるように思うが、その辺り、導入がシンプルで良いという結論に至ったことについて、東京書籍の話し合いの中でどんな意見が出されたのか教えて欲しい。

### 【主任研究員】

はい。話し合いの中では、二つの意見が出た。今、委員が話したように、最初に価値を方向づけて、主人公を掴みながら、順番に進めていくという方が、若い先生方にとって基本的でやりやすいのではないかという意見と、逆に道徳を繰り返しやられた方にとっては、こういう書きぶりではなくて、自分で誠実をとらえて、自分の言葉で話をする方が良い。むしろ書いてない方が、やりやすいという意見もあった。調査研究は20代30代40代50代といたので、40代50代の方が、そのような話をした。どちらにも使いやすいという面で考えたときに、道徳をどうやって進めるのか学年で話し合ったり、校内で話し合ったりして、詳しく指導書を見るというのが本来の道徳性を高める上で大事なことはないかという意見に落ち着いた。最近、教科書の発問をそのまま使うことが増えているが、教科書を使いながら、なおかつ一緒に道徳性を学んでいくということをやることが、教師自身も成長していくと考え、シンプルな方を選んだ。

### 【採択検討委員】

最終的に東書と日文が、1番目2番目となっており、この差を見ると、1の(3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の部分が違うということ。考え、議論すると、ずっと言われて久しいが、すごく大事なものは発問。その時に、若い先生がおっしゃっていた、例えば「ひとふみ10年」のところを見たときに、このチングルマについては、年輪のところがあるが、主人公が年輪をみたときに、10年でこんなにかかるという時のチングルマの成長の凄さとか、畏敬の念が出てくる。そんな場面だと思うが、そう考えたとき、日文は、41ページに発問で「チングルマの年輪を見たときどんな思いをもったのか」と示してある。一方、東書は、「ひとふみ10年の話を聞いて、どんなことを考えたのだろうか」と示している。この価値に迫る場面は年輪をみさせるところだと思ったときに、日文は、発問の一番ポイントとなるところが書いてある。ただ、一つの場面だけ比べているので分からないが、考え議論することに課題があるということで議論された結果が、やはり東書の方が優れているという話し合いであったのかということを知りたい。

### 【主任研究員】

発問については、よく話し合った。考え、議論するというところで、先ほど説明させてもらった時は、特に発問について話した。考え議論するというところは、どうすると考え、議論する道徳になるのだろうかという方法のところの説明をした。そちらについては、どちらも、道徳の進め方であるとか、深め方であるとかは、最後に広げようとか深めようというページが続いており、議論するようになっているという説明をした。道徳性を高めることを目標として、同等の教材を、同じように見比べながら、

どちらの発問がよりやり易いのかということについて、2社3社と順番に比べた。結果、東京書籍と日文は非常に似たところが多い、今はひとふみ10年の話をされたが、低学年で話題になったのは、先ほどの道徳ノートの話と、挿し絵の話だった。表情が豊かで見たとときに、子どもたちにすっと入ってきて、本質に迫る絵というのは何なんなのだろうかと思比べてきた時に、この「橋の上のオオカミ」も、先ほどの「かぼちやのつる」もそうだが、その一つ一つの挿絵が非常に東書の方が、子どもたちが考えやすいということを選んだ。

#### 【教育長】

どちらにもそれぞれの強みがあってということだが。

どうか。いろんなお立場の方いらっしゃるので、自分のところの子どもが使うとしたらという視点でもいいし、皆さん、決めにくいと困ってらっしゃると思うが。岐阜の子どもたちに合う内容かどうかという話にしては、千畝さんも上村さんの話も、岐阜市がやろうとしている教育からすると極めてリアルで分かりやすい内容。例えば、社会科の教科書に高山祭の写真が1枚載っているから、こっちを選ぶということとは違うと思う。実際に岐阜で生きてらっしゃる方、岐阜で育った実際の方の話なので、資料として価値がある。あと、もう一つの話は日文の方が、この資料の最初のところにある「～について考えよう」が、逆に制限してしまうのではないかという意見もある。あとは挿し絵のダイナミズムも話題になっている。あと1人2人、意見いただけるとありがたい。調査研究委員は、それはすべて話し合っただけの結論での◎ということであるか。

#### 【主任研究員】

はい。

#### 【採択検討委員】

確認だが、道徳ノートがなければ、日文の順位が高いということはないか。

#### 【主任研究員】

道徳ノートがなければ、日文の方が高いかという質問だが、日文と東京書籍は、双方に道徳ノートがないとしても、ほぼ同点。どちらがいいのかと言われると、先ほどの全世代にとって使いやすいと考えたとき、我々の見解では東京書籍だという結論に至った。道徳は、今回で3回目の教科書改訂になる。どの社も前回から良くなっており、課題だったところが全部改訂されているので、非常に似たような内容になってきている。本当に選ぶのに苦労したというのが事実である。

#### 【採択検討委員】

苦労もよく分かって話すが、道徳ノートがネックになっているのなら、この使い方一つだと思う。一年生でいうと、最初は場面でイラストを選ばせる場面からだんだん

難易度が上がってくるというような段階的な展開になっている。その中で感想を書くように言っても、最初の段階ではなかなか書けないと思う。今の気持ちをイラストにしてみようという活用の仕方もある。だから道徳ノートで迷っているのなら、活用の方法はあると思う。

**【採択検討委員】**

先ほどの意見の続きで、岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書というのは、公表されるか。

**【事務局】**

ホームページにおいて公表する。

**【採択検討委員】**

そうすると、日文の岐阜市に関係ある教材が入っているのに、他と変わらない評価というのはおかしいと思われる。例えば、まだ12点となっていて、それでも東書と決めていくのはいいかと思うが。ただ、一般市民の考え方で言うと、岐阜の教材が入っているなら、そっちの方がいいのではないかと誰もが考えるのではないかと感じる。

**【教育長】**

これについていかがか。委員の皆さん。ここは岐阜市採択地区なので、岐阜市の子どもたちに最も適していると考えていただいているが。

**【主任研究員】**

岐阜の教材ということでは、例えば学研だと、高橋直子さんが入っており、杉原千畝さんでいえば、光文にも入っている。下呂市の大前光一さんも入っている。岐阜県というふうには考えていくと、どの社も扱っている。我々が考えたのは、ふるさと教材を使いながら、そのふるさとの人でなくても、自分たちにつなげて考えることがすごく大切なことだと思う。もっと言えば、私は加納だから加納の地域の人だったり、日野だったら日野の地域の方だったり、そちらの方につなげることもできると思う。今日まさにピンポイントの教材が使えることも必要だが、そうではなく、つなげて考えるといった指導の進め方も可能なのではないかということも議論して、このような結果を出した。

**【教育長】**

確認すると、岐阜市の話材といのは、日文さんの上村さんのじゃがいもの話。他は、何があるか。高橋尚子さんはどこか。

**【主任研究員】**

学研の3年生。

**【教育長】**

岐阜市は、他にあるか？



【主任研究員】

岐阜市だと、先ほどの日文の日本動物愛護センター78 ページ。

【教育長】

杉浦千畝さんはどこどこか。

【主任研究員】

千畝さんを扱っているのは、光文と日文。

【教育長】

それと、チングルマの話は、岐阜の話でよいか。北アルプスということだが。

【主任研究員】

立山。

【教育長】

立山ということは、富山？北アルプスのチングルマもあるが、チングルマは草じゃなくて木だってことは知らない人が多いので、私も北アルプスのチングルマって木だと教えた。これは富山だから微妙に違うということ。日文の上村さんと千畝さん、それから光文の千畝さん、それから学研の高橋尚子さん。ということによいか。

【主任研究員】

大前晃一さんは、光文。

【教育長】

そうすると、3番の岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書のところ、さきほど委員が話したように、この日文とか光文に丸がついてもおかしくはないということになる。調査研究委員としては、そこまでではないだろうという感じだが。年間35時間しかない。35時間×6年分だが。委員さんは、日野ということに限定ではなく岐阜市の大事な話材であるということ。

【採択検討委員】

全国的に災害救助犬の話は有名。

【教育長】

ただここに、日分の方が◎になると12、12になってしまうので、全体のどちらがいいのかという話になる。前列の委員さんの中でいかがか、自分の子どもさんとか、お孫さんが岐阜の子どもたちとして勉強する道徳の資料の中に岐阜の題材が入っていることについて意見はないか。

【採択検討委員】

難しい。結局、僕ら昭和の時代の教員なので、以前は、勝手に何か資料をコピーして著作権もあまり気にせずに、自分がやりたい教材で道徳やっていた。教科になったので、こういう縛りがあることをひしひしと感じた。つまり、教科書採択すると、他

の発行者のものは著作権絡みで使えない。一社を選ぶってことは他を排除するっていう発想になっちゃうので、これは辛い。これ本当に子どもの幸せなのかと思う。

そうすると、いわゆる教科書の最初に、例えば価値が書いてあるだとか導入がどうかということも、先生方が使いたい題材が何なのかということも、本来は学校の先生が決めればいいと思う。なぜかというと地域によって道徳性も違うし地域性も違うから、それは、加納校区と日野校区と、私も務めた穂積校区とでは全然違うと思う。でも、一社に決めないといけないので、地域に根づいた教材が教科書に入っていることを優先順位にするのであれば、日文の方を選択すると理由は成り立つ。あとその文の書き方とかそんなことは、例えば価値が書いてあるとか、そのあとに展開が詳しく載っているとか、それはもう教員側の裁量で何とでもなるように思う。しかし、教材があるかないかは0から100の違いがあるので、それは大きいと思うのが1つ。ただ、僕がもし校長だったら、例えば道徳の教科書になかったら、それは使えないかと言ったら、全くそれは違っていて、例えば日野小でもホームページ見ると、全校道徳でやっている。教科書にあった方がいいということだけでも、例えば、岐阜市でいえば、ぎふMIRAI'sの中で、生きることを学ぶということをやっているわけだから、それはまさに全教育課程を通じての生き方教育であり、道徳教育であるわけなので、教科書にないからできないことは、私はないと思う。

今、2つ言ったが、1つは、岐阜市の教材があるということの大前提だということに立てば、必然的に日文が優先順位は高くなる。それで理由が成り立つ。

でも、東書の他の教材にも値打ちのあるものが多く、そこが捨てがたいというのであれば、後者の理論でなくても、それは、教育全体の中でカバーしていくというようにシフトして、教科書教材としては東書でいくということになる。何で日文じゃないのかと言われた時に、理由をしっかりと説明できるようにしておく。その選択肢のどちらかにしなければならぬと思う。今、皆さんの意見を聞いて思った。「生きる」を学ぶことやっているわけだから、道徳の教科書がなかったら学べないかといったらそうではなく、どの学校も地域でたくさん取り組んでいる。地域の有識者とか地域人材とかで学んでいること、それはまさに生きる道徳だと思う。

#### 【教育長】

少し方向付けをしていただいたが、いかがか。

今、委員がおっしゃってくださったぎふMIRAI'sの話とリンクする話になれば、この上村さんの話は取り上げる。今年で言うと、木戸さん、原爆の被害被災者、それから平工健太郎さんからのお話もしていただいたし、全国のすべての子どもたちに向けて、直接的、間接的に、出会うことは十分できる。そういう考え方でいけば、この道徳の教科書の中でしか上村さんの挑戦を扱うことはできないかという話になると

また、別の話だと感じる。そうすると、本質的に、他の点で東京書籍の編集とか、全体の構成とか、そちらの方が岐阜市の道徳教育に合っているのではないかというところへ落ち着いてくるような気もする。責任持って調査研究やったださったと思うので、様々な意見が出たが、東京書籍の方がふさわしいだろうという考えでよろしいか。

#### 【主任研究員】

今、委員がおっしゃられたように、岐阜市のぎふMIRAI'sを考えるときに、岐阜市の教材が入っているべきではないかという話も、当然話し合った。その時に話で出たのは、岐阜県としては、教科書を使うことは大前提だけど、岐阜県教育委員会の方でも、名和昆虫博物館の話であるとか、初めての図書館施設を作った先生の話だとか、実は岐阜市に関わる話はいくつかもうすでに県としても開発している。それは載っていないけれども、県のホームページを探すと出ている。35時間、指導内容を変え、もし本当に、その方の生き方を学ばせたいというふうであれば、その教師の強い思い、学校の強い思い、子どもたちに絶対これを学ばせたいという思いで、カリキュラムを変えて学ぶ、総合的な学習につなげて学ぶことは可能だという議論をした。先ほどの教科書に掲載してある掲載してないという話になると、いろいろあるが、20代の先生から、50代の先生までどの方も使いやすいということと、それを使うことで子どもたちが、議論しやすいという内容で、東京書籍の方が使いやすいというのが我々、調査研究員の最終的な意見として提案している。

#### 【採択検討委員】

全部の資料と教科書を読んだわけではないが、私がもし授業をするなら、先ほどの岐阜県の資料が入っているか、入っていないかっていうところは別として、東京書籍だと思った。その理由は調査研究、資料にもあるように、登場人物の心の中を説明する文言が削減されている。私はここがすごく大事だと思う。子どもたちは教科書を開いたまま、ここにこうやって書いてあるからこう思ったという国語のような読み取りをすることが多く、道徳は、そうではなくてその背景とか、文章の中からその心情や本当のねらう姿を感じ取っていくことが大切だと思っている。そういう面では東京書籍が良いと自分は感じた。

#### 【教育長】

実際に現場で指導する立場からの意見だった。あとよろしいか。

それでは採決をする。いろんなご意見出たが、種目道徳の調査研究報告が適切かつ、十分なものである。ということについて、承認をいただけるか。承認いただける方は挙手をいただきたいと思う。(全員挙手により承認)

#### 【教育長】

続いて、中学校で来年度使用することになる教科用図書の採択にかかわって確認をさせていただく。

**【事務局】**

前回の検討委員会でも話題にさせていただいたが、中学校用教科用図書は、本年度採択替えの年度ではない。したがって、次年度も本年度使用している教科書を使用することとされている。

そこで、令和2年度に採択をし、令和3年度から3年間使用している教科書について、中学校現場で実際に使用して指導している、各教科の教科等指導員や指導主事からの意見を参考に適切に採択を行うこととなる。【別冊】資料にある教科等指導員からの意見をご覧くださいと、現行使用している教科書の全教科について特段の大きな問題点はない。

「令和5年度に使用している教科書を継続して採択し、令和6年度も使用すること」について、ご審議のほどよろしく願います。

**【教育長】**

それでは、来年度使用する中学校教科用図書についての質問・意見を受ける。質問・意見はないか。(質問無し)

**【教育長】**

それでは、採決する。

種目「中学校」の調査研究報告が適切かつ十分なものであることについて、承認いただけるか。承認いただける方は挙手願う。

(全員挙手により承認)

**【教育長】**

では、今回の小学校の教科用図書の調査結果及び中学校の教科用図書の調査結果については、「教育委員会定例会」に議案として報告する。

以上をもって、本日の議題は終了し、司会を事務局に返す。

**【事務局】**

3点確認する。

1点目は、情報公開について。

先にも言ったとおり、9月1日以降、本会の議事録は公開の対象とさせていただく。なお、本会の日程、協議内容等は8月31日までは極秘となっているので、秘密厳守でお願いしたい。

本日の資料も会終了後に回収させていただく。

2点目は、採択について。

今回の議決事項を7月26日の「教育委員会定例会」で報告し、最終的な採択を行う。ただし、文科省から「採択権者が十分な審議を行うことが必要であり、採択権者の責任が不明確になることがないよう留意すること。」と通知を受けている。

よって、本日、ご承認いただいた調査結果を参考にして、教育委員会で最終的な検討がなされることをご承知おきください。

3点目は、採択検討委員の皆様の任期について。

皆様の任期は、令和7年3月末日までとなっている。

教育委員会において、調査研究の再検討が必要とされた場合には、再度、お力をお借りすることになるが、よろしく願います。以上。